

成長しつづける丹波の夢ビジョン改訂版

みんなで丹波の森



平成23年10月
丹波地域ビジョン委員会
兵庫県丹波県民局

目 次

| | |
|-----------------------------------------|-----|
| 1 丹波地域ビジョンの改訂について..... | 2 |
| 2 ビジョン策定（平成 13 年 2 月）以降の地域をとりまく変化 | 3 |
| 3 これまでの地域での取組内容・活動成果..... | 1 1 |
| （ 1 ）第 1 期～第 4 期丹波地域ビジョン委員会の取組内容..... | 1 1 |
| （ 2 ）第 5 期丹波地域ビジョン委員会の取組内容..... | 1 2 |
| （ 3 ）将来像の実現状況..... | 1 3 |
| （ 4 ）地域ビジョンの実現に向けた取組の成果..... | 1 4 |
| 4 丹波地域の新たな課題について..... | 1 6 |
| 5 丹波地域の将来像について..... | 1 9 |
| 6 新たな将来像を実現するための取組の方向..... | 2 1 |
| - 将来像 1 - みんなで創る“自立のたんば” | 2 2 |
| - 将来像 2 - 都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば” | 2 4 |
| - 将来像 3 - やりがいを実感できる“元気なたんば” | 2 8 |
| - 将来像 4 - 多世代が支え合う“絆のたんば” | 3 3 |
| - 将来像 5 - とともに暮らす“安全安心なたんば” | 3 6 |
| 7 新たな将来像の実現に向けて..... | 3 9 |
| （ 1 ）取組姿勢..... | 3 9 |
| （ 2 ）シンボルプロジェクトの展開..... | 3 9 |
| （ 3 ）取組体制..... | 4 0 |
| 〔参考〕 丹波地域ビジョン委員会が取り組む当面の活動..... | 4 1 |
| 2020 年（平成 32 年）の丹波地域の暮らし・ライフスタイル..... | 4 4 |
| 参考資料..... | 4 6 |

1 丹波地域ビジョンの改訂について

現行の丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」(以下「現行地域ビジョン」)は、平成元年に策定された「丹波の森構想」(注1)の10年以上にわたる取組の成果と課題を踏まえて、平成13年2月に、住民自らが、丹波地域の将来像とその実現方策をとりまとめたものです。

この地域ビジョンは、従来のように過去のトレンドや計量的な将来予測をもとに、達成すべき目標を掲げ、そのために実施すべき行政施策や事業の総量を示す行政主導型の「計画」ではなく、住民自らが事業者、団体、NPO等の地域で活動する様々な主体とともに望ましい将来像を描き、そして共有し、取り組んでいく指針として策定されたものです。

ビジョン策定から10年が経過し、現行地域ビジョンが想定した目標年次2015年(平成27年)までの中間年を過ぎました。この間、現行地域ビジョンの実現に向け、地域住民、団体、企業、行政など多様な主体が知恵を出し、連携・協力しながら、様々な活動に取り組んできました。

しかし、人口減少、少子高齢化が進展するなど、丹波地域を取り巻く状況は変化し続けており、活動を通じて明らかとなってきた新たな課題にも的確に対応していかなければなりません。このため、時代潮流の変化を踏まえながら、地域住民、関係団体の皆さんから寄せられた意見や平成21年3月にまとめられた丹波の森構想の評価・検証報告(注2)をもとに、現行地域ビジョンを点検・評価し、30年後の2040年(平成52年)を展望しつつ、2020年(平成32年)の地域の姿を想定した丹波地域ビジョン改訂版を策定しました。

【想定年次等】

| 区 分 | 想定年次 | 展望年次 |
|-------------------------------------|------------------|------------------|
| 現行地域ビジョン (2001年2月(平成13年2月)策定) | 2015年 (平成27年) | 2030年 (平成42年) |
| 改訂版地域ビジョン (2011年10月(平成23年10月)策定) | 2020年 (平成32年) | 2040年 (平成52年) |

(注1) 丹波の森構想

豊かな自然、文化に育まれた田園、優れた都市機能が調和した「新しい田園文化都市」の創造を目指して、北摂・丹波地域を舞台に開催された北摂・丹波の祭典「ホロンピア'88」(昭和63年4月~11月)の成果等を地域の活性化につないでいくため、丹波地域の住民自らの提案により、丹波の地域づくりの理念を唱った「丹波の森宣言(昭和63年9月)」が示され、平成元年3月に、この理念を実現するための地域づくりの取組指針を提案した「丹波の森構想」が策定されました。

(注2) 丹波の森構想評価・検証報告

丹波地域における地域づくりの指針である「丹波の森構想」が策定されてから20年の節目を迎えた平成21年3月、これまでの歩みを振り返るとともに、丹波の森構想20年の取組等の評価・検証を行い、今後の地域づくりの方向性を提案した「丹波の森構想評価・検証報告書」がまとめられました。

2 ビジョン策定（平成 13 年 2 月）以降の地域をとりまく変化

人口減少社会の到来

高齢化率が上昇を続ける一方で、出生率は減少し、人口減少社会を迎えています。こうした傾向は、今後も長期的に続いていくと見込まれます。

また、丹波地域は京阪神地域と近接していることから、地域外への人口流出も課題となっています。

人口

全県の人口はゆるやかに増加していたものの、最近では横ばい傾向にありますが、県の将来推計人口によると、平成 27 年から減少に転じる見込みとなっています。一方、丹波地域の人口は、平成 12 年の 119 千人から平成 22 年の約 111 千人と、10 年間で約 8 千人、6.8% 減少しています。

また、死亡数が出生数を上回る自然減に加え、転出者と転入者の差である社会増減についても、10 年間で約 3 千人の減少となっています。

（単位：人）

| 区 分 | 平成 12 年 | 平成 17 年 | 平成 22 年 | - | / |
|------|-----------|-----------|-----------|----------|--------|
| 篠山市 | 46,325 | 45,245 | 43,268 | 3,057 | 6.6% |
| 丹波市 | 72,862 | 70,810 | 67,780 | 5,082 | 7.0% |
| 計 | 119,187 | 116,055 | 111,048 | 8,139 | 6.8% |
| （全県） | 5,550,574 | 5,590,601 | 5,589,117 | + 38,543 | + 0.7% |

各年：総務省統計局「国勢調査報告」（平成 22 年は速報値）

高齢化率

丹波地域の高齢化率は、平成 12 年の 24.0% から平成 22 年の 28.6% と、4.6 ポイント上昇しています。また、全県の高齢化率（22.4%）と比較すると、6.2 ポイント高くなっています。

（単位：%）

| 区 分 | 平成 12 年 | 平成 17 年 | 平成 22 年 | - |
|------|---------|---------|---------|-------|
| 篠山市 | 24.1 | 26.0 | 28.7 | + 4.6 |
| 丹波市 | 24.0 | 25.9 | 28.5 | + 4.5 |
| 計 | 24.0 | 25.9 | 28.6 | + 4.6 |
| （全県） | 16.4 | 19.2 | 22.4 | + 6.0 |

各年 2 月現在 県情報事務センター「高齢者保健福祉関係資料」

合計特殊出生率

丹波地域の平成 17 年の合計特殊出生率は 1.41 となり、全県の 1.25 を上回っていますが、平成 12 年の 1.77 から 0.36 ポイント減少しています。

| 区 分 | 平成 12 年 | 平成 17 年 | - |
|------|---------|---------|------|
| 篠山市 | 1.59 | 1.31 | 0.28 |
| 丹波市 | 1.89 | 1.49 | 0.40 |
| 計 | 1.77 | 1.41 | 0.36 |
| (全県) | 1.38 | 1.25 | 0.13 |

県情報事務センター「厚生統計情報」



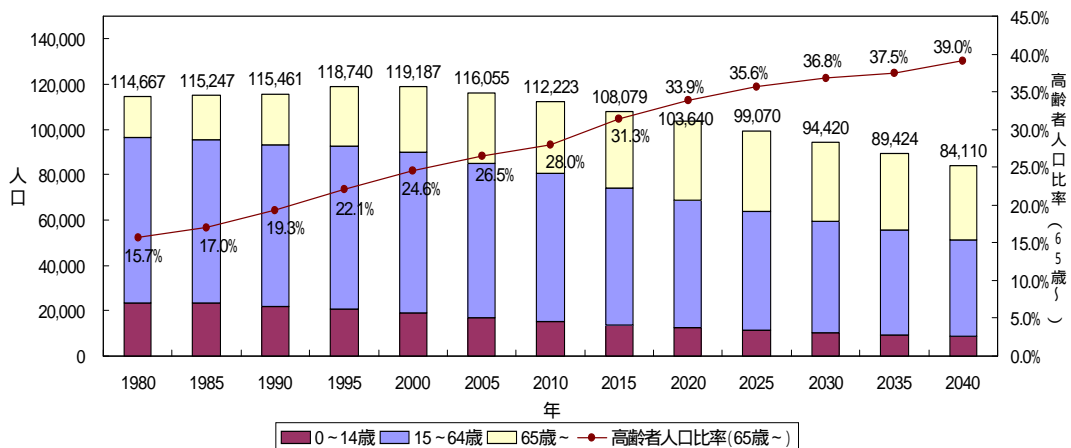
【参考】丹波地域の将来推計人口（平成 20 年 5 月 兵庫県企画県民部政策室推計）

2005 年（平成 17 年）国勢調査を基準人口とし、出生率・移動率等が現在のトレンドで推移すると仮定して、35 年後の丹波地域の人口を推計すると、2040 年（平成 52 年）には 84,000 人と、2005 年から 27.6% 減少し、全県の減少率（16.2%）を大きく上回ることが予測されています。

また、生産年齢人口比率（15～64 歳）は、丹波地域、全県とも減少を続けるとともに、高齢化率は、丹波地域、全県とも上昇を続けます。

| | (2005 年) | (2040 年) |
|--------------|----------|--------------------|
| 人 口〔丹波〕 | 116 千人 | 84 千人 (27.6%) |
| 〃 〔全県〕 | 5,591 千人 | 4,688 千人 (16.2%) |
| 生産年齢人口比率〔丹波〕 | 59.0% | 50.7% (8.3%) |
| 〃 〔全県〕 | 65.8% | 52.6% (13.2%) |
| 高齢化率〔丹波〕 | 26.5% | 39.0% (+12.5%) |
| 〃 〔全県〕 | 19.9% | 38.1% (+18.2%) |

丹波地域の人口の推移予測(2005年までは実績値)



地域産業の状況

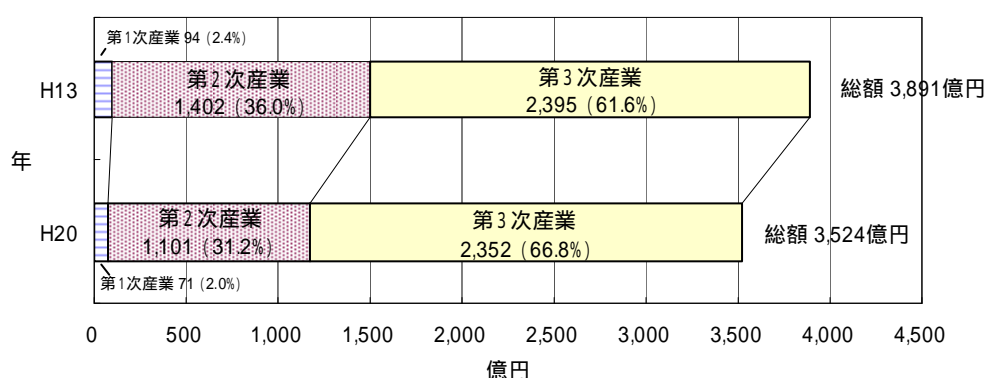
丹波地域の総生産額については、平成13年の3,891億円から平成20年の3,524億円と、367億円、9.4%減少し、全県の減少率より7.5ポイント低くなっています。

産業別比率を見ると、第1次産業2.0%(全県:0.5%)、第2次産業31.2%(全県:28.1%)、第3次産業66.8%(全県:71.4%)となり、全県と比べると、第1次、第2次産業が高く、第3次産業が低くなっています。

また、製造品出荷額は増加傾向にあるものの全県比率はほぼ横ばいであり、1事業所当たりの製造品出荷額は全県の7割程度となっています。そのほか、商品販売額は総額が低下傾向にあるうえ、1店舗当たりの商品販売額は全県の半分程度で零細な商店が多くなっています。

なお、第1次産業の中心である農業における産出額は、平成13年の158億円から平成18年の134億円と大きく減少しています。

丹波地域の総生産額の状況(第1次～第3次産業別生産額)(県統計課「市町民経済計算」)



丹波地域の製造品出荷額の状況

(単位:億円)

| 区分 | 平成13年 | 平成20年 | 増減 | 1事業所当たり(万円) |
|------|---------|---------|-------|-------------|
| 丹波地域 | 3,576 | 4,609 | 28.9% | 105,710 |
| 全県 | 131,213 | 165,128 | 25.8% | 148,137 |
| 対全県比 | 2.7% | 2.8% | - | - |

県統計課「工業統計調査結果報告」

丹波地域の商品販売額の状況

(単位:億円)

| 区分 | 平成14年 | 平成19年 | 増減 | 1店舗当たり(万円) |
|------|---------|---------|-------|------------|
| 丹波地域 | 1,671 | 1,622 | 2.9% | 10,169 |
| 全県 | 131,776 | 132,655 | +0.7% | 21,540 |
| 対全県比 | 1.3% | 1.2% | - | - |

県統計課「商業統計調査結果表」

丹波地域の農業産出額の状況

(単位:億円)

| 区分 | 平成13年 | 平成18年 | 増減 |
|------|-------|-------|-------|
| 丹波地域 | 158 | 134 | 15.2% |
| 全県 | 1,636 | 1,462 | 10.6% |
| 対全県比 | 9.7% | 9.2% | - |

近畿農政局兵庫農政事務所「兵庫農林水産統計年報」

住民による地域づくり活動の活発化

地域活動やボランティア活動をしている人の割合は全県に比べ高く、また、NPO法人たんばぐみやNPO法人ほっと丹波など多数のNPO法人が設立されるとともに、まちづくり協議会や自治振興会等が設置されるなど、参画と協働による地域づくり活動が育ちつつあります。

さらに、丹波地域の街角や里山、社寺を舞台としたコンサート「シューベルティアードたんば」の開催、市民の創作による市民オペラ「おさん茂兵衛」の上演、都市部の企業と連携した森や里山の保全活動、篠山層群で発見された恐竜化石等を活かした地域づくり活動など、丹波地域の特色を活かした地域づくりが進められています。

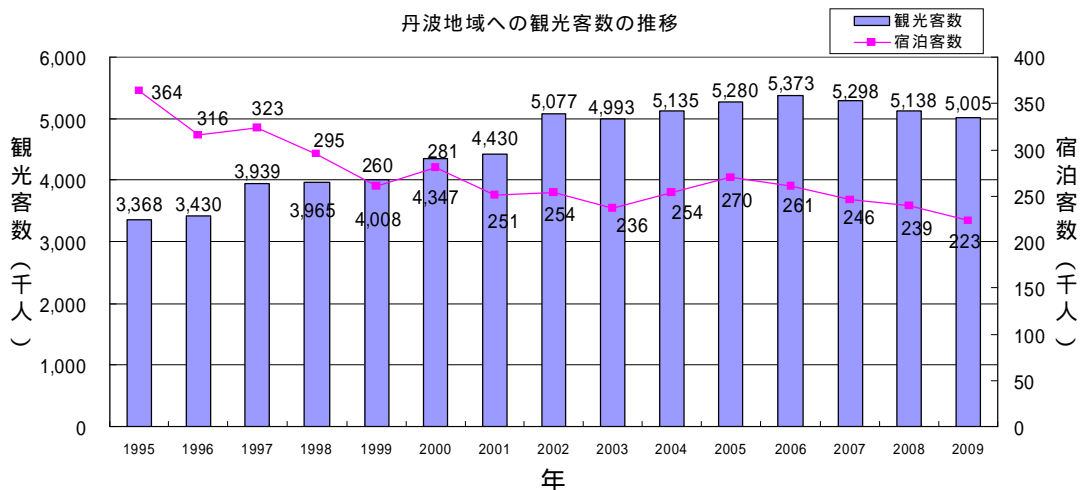
- ・ NPO法人数（県地域協働課調べ）
平成 13 年 4 法人 平成 21 年 42 法人
人口千人当たり 0.38（全県：0.27）
- ・ 地域の行事によく参加する人の割合（県民意識調査）
平成 22 年 63.7%（全県：34.6%）
- ・ 地域活動やボランティア活動をしている人の割合（県民意識調査）
平成 22 年 39.5%（全県：24.5%）
- ・ ボランティアなどで社会のために活動してみたい人の割合（県民意識調査）
平成 22 年 36.7%（全県：35.5%）

交流活動の多様化

舞鶴若狭自動車道や北近畿豊岡自動車道等の広域ネットワークの整備が進んでいるにもかかわらず、観光客数はここ数年、横ばい傾向にあり、また、昨今の景気低迷に伴い、宿泊客数は減少傾向にあります。

その一方で、丹波地域が有する豊かな自然環境や美しい風景、食・農への関心が高まるとともに、ライフスタイルの変化等に伴う田舎暮らし希望者の動き等が一部で見られるようになっていきます。

- ・ 高速道路インターチェンジへの30分到達圏カバー率（県道路企画課調べ）
平成 14 年 約 78% 平成 18 年 100%（全県：97%）



県観光交流課「兵庫県観光客動態調査報告書」

環境意識の高まり

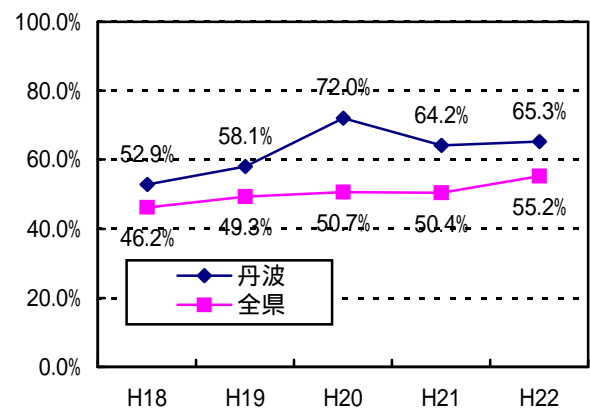
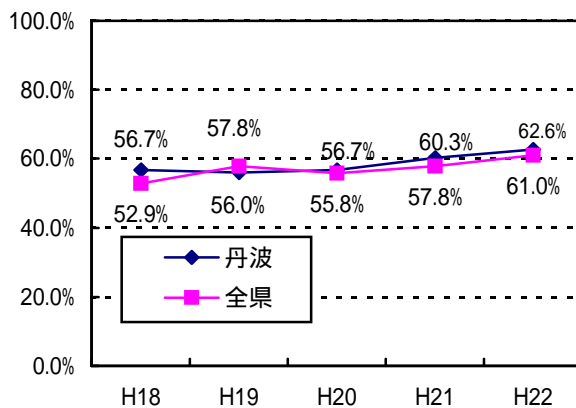
地球温暖化の進行や生物多様性の危機など地球規模での環境問題が深刻化している一方で、自然環境の保全に向けた取組が進展するとともに、太陽光やバイオマス（再生可能な、化石燃料を除く生物由来の有機性資源）等のクリーンエネルギーの利用、環境配慮型商品の開発・普及等が進んでいます。

丹波地域でも、住民や団体・NPOによる自然環境保全や企業と地域が連携した森・里づくりなど都市住民との連携による環境保全の取組が進められています。

- ・一般廃棄物の排出量（県環境整備課調べ）
平成13年 40,784 t 平成20年 37,981 t
- ・1人1日あたりのごみ排出量（集団回収を除く）（県環境整備課調べ）
平成13年 793 g 平成20年 783 g
- ・ひょうごバイオマス eco モデル登録状況（県消費流通課調べ）
平成17年度～平成21年度 3件（全県：48件）

製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいく人の割合（県民意識調査）

住んでいる地域の自然環境は守られていると思う人の割合（県民意識調査）



地域コミュニティの機能の低下

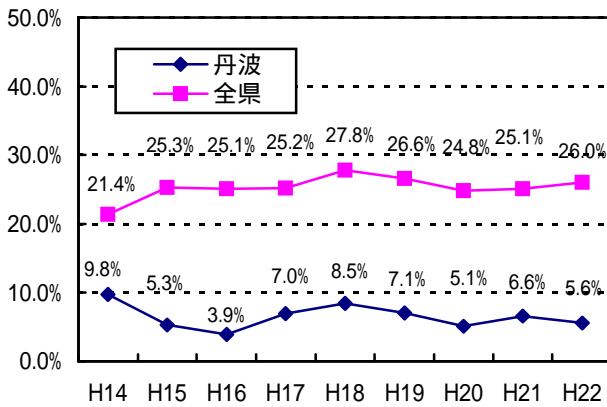
人口減少や若年層の流出、高齢化の進展、とりわけ高齢単身世帯の増加に伴う地域の担い手の減少や、ライフスタイルの都市化に伴う地域のつながりの希薄化によって、地域コミュニティの機能が低下してきています。特に山間部の小規模集落では共同作業が困難になるなど、地域のみでコミュニティを維持し続けることが難しくなることも懸念されています。

また、住民の生活拠点となってきた商店街が大型店の出店に伴い衰退したり、民間路線バスが廃止されること等により、生活の利便性が低下しています。

一方で、新規就農等を目的とした丹波地域への移住者をはじめ、丹波地域との交流を進める団体の設立や様々な活動の展開の動きが見られるとともに、コミュニティバスやデマンド（予約）型乗合タクシーの運行など生活利便性確保の取組もなされています。

- ・小規模集落数（「高齢化率40%以上」かつ「50世帯以下」の集落）（県ビジョン課調べ）
平成19年 24集落 平成21年 30集落
- ・単身世帯数（世帯員が一人だけの世帯、（ ）内は全世帯に占める割合）（国勢調査）
平成12年 6,185世帯(17.0%) 平成17年 7,009世帯(18.8%)（全県：26.5%）
- ・高齢単身世帯数(65歳以上の者の一人のみの世帯、（ ）内は全世帯に占める割合）(国勢調査)
平成12年 2,757世帯(7.6%) 平成17年 3,262世帯(8.7%)（全県：9.1%）

住んでいる地域の商店街や駅前に活気があると思う人の割合（県民意識調査）

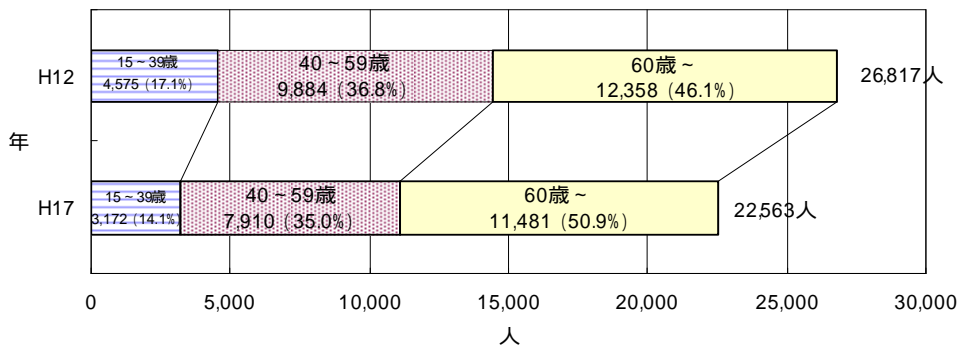


農林業の状況

農林業については、食料や木材の供給という役割だけでなく、食の安全・安心や国土保全・美しい景観形成、地球温暖化対策など公益的機能の観点からもその重要性が見直されつつあります。

丹波地域では、丹波黒大豆、丹波大納言小豆、丹波栗等の特産農産物が丹波ブランドとして大きな評価を得る一方で、農林業従事者の高齢化と担い手不足が見られるとともに、野生動物による農林業被害や森林病虫害によるナラ枯れ等の森林被害も発生しています。

丹波地域の年齢別農業従事者数（世界農林業センサス）



- ・丹波黒大豆作付面積（県丹波農林振興事務所調べ）
平成16年 515ha 平成21年 675ha
- ・丹波大納言小豆作付面積（県丹波農林振興事務所調べ）
平成16年 210ha 平成21年 337ha
- ・食料自給率（カロリーベース）（県総合農政課調べ）
平成19年 82.0%（全県：16.0%）



情報化の進展

ブロードバンド（高速・大容量のデータ通信が可能な回線）環境の整備や携帯情報端末の急速な普及によるICT（情報通信技術）の進展は、経済活動の分野や住民生活に大きな変革をもたらしています。ICTの有効活用により、住民の生活利便性を高めていくことができる一方で、有害情報から青少年を守るという課題やICT利用者と非利用者との情報格差といった問題も生じています。

- ・インターネット利用者数（総務省通信利用動向調査〔人口普及率〕全国）
平成13年 44% 平成21年 78%
- ・ブロードバンドインターネット整備率（総務省・県情報政策課調べ、全県）
平成13年 64.8% 平成20年 100%
- ・インターネットの普及で自分の生活が豊かになったと思う人の割合（県民意識調査）
平成14年 15.4% 平成19年 23.6%

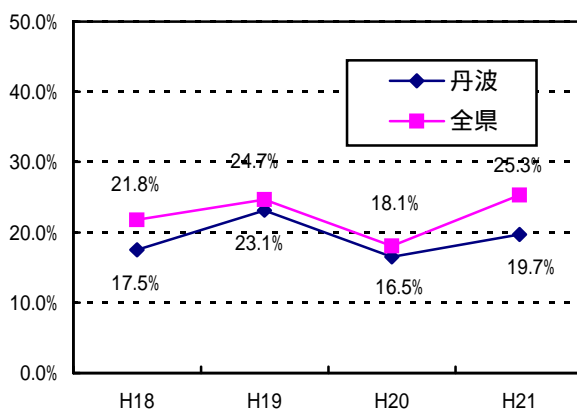
安全・安心意識の高まり

多発する台風や集中豪雨が、県下各地域に大きな人的被害や住家被害をもたらすとともに、東日本大震災、高病原性鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等の発生、食品の安全が問われる事件の発生等に伴い、安全・安心に対する住民意識が高まっています。

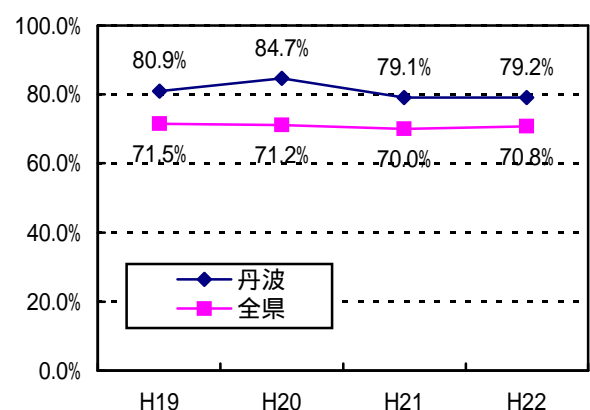
また、地域医療を担う医師が不足するなか、丹波地域では、これを住民の側から支える取組が始まっています。

- ・兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）加入率（県復興支援課調べ）
平成18年度 5.4% 平成22年度 12.3%（全県：7.8%）
- ・まちづくり防犯グループ数（県地域安全課調べ）
平成17年度 24グループ 平成20年度 48グループ
- ・ひょうご認証食品数（県消費流通課調べ）
平成16年度 22品目 平成20年度 80品目
- ・人口10万対医師数（厚生労働省医師・歯科医師・薬剤師調査）
平成16年 180.5 平成20年 160.6

災害に対する備えをしている人の割合
（県民意識調査）



住んでいる地域で登下校時の見守り・パトロールや街灯整備等の安全・安心を守る取り組みが行われていると思う人の割合（県民意識調査）



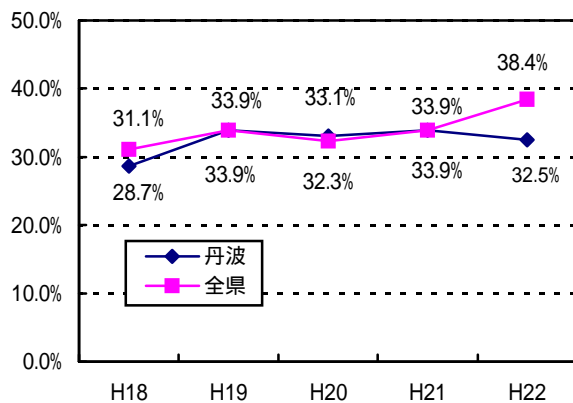
ユニバーサル社会への社会的要請の高まり

声かけ運動や多機能トイレの設置、歩道の段差解消など高齢者、障害のある人、妊婦、幼児、外国人等を問わず、誰もが安心して暮らせる住みやすい地域づくりを目指す具体的な取組が進んでいます。

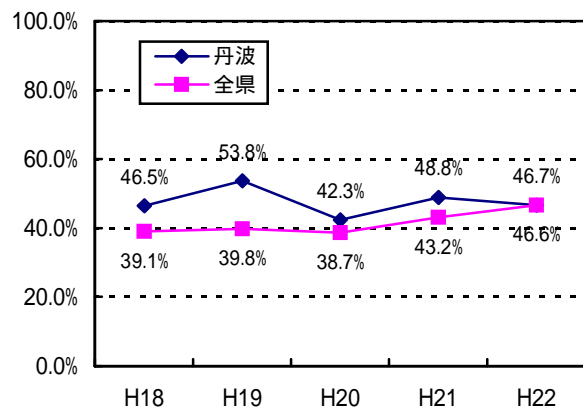
また、障害のある人の雇用・就労支援に向けた取組など、誰もが自らの能力を發揮して働いたり、地域社会の様々な活動に参加できるよう、多様な選択、多様な生き方が可能なユニバーサル社会（年齢や性別、文化の違いにかかわらず、誰もが安心して暮らせる社会）の形成が必要となっています。

- ・ユニバーサル社会づくり推進地区（県都市政策課調べ、平成22年4月1日現在）
2地区（篠山城下町地区、柏原地域崇広小学校区）（全県：19地区）
- ・公共交通のバリアフリー化（県都市政策課調べ、全県）
鉄道駅舎のエレベーター設置等補助 平成5年度～平成20年度 92駅179基
ノンステップバスの導入補助 平成10年度～平成20年度 252台
- ・障害者雇用率（厚生労働省兵庫労働局調べ、全県）
平成13年 1.70% 平成22年 1.81%

住んでいる地域は高齢者や障害者にも暮らしやすいと思う人の割合（県民意識調査）



住んでいる地域の高齢者はいきいきと暮らしていると思う人の割合（県民意識調査）



3 これまでの地域での取組内容・活動成果

(1) 第1期～第4期丹波地域ビジョン委員会の取組内容

丹波地域ビジョン委員会では、第1期から第4期委員まで延べ466名のビジョン委員が、丹波地域ビジョンの実現に向けて、平成13年から平成20年までの8年間にわたり次のような活動を展開してきました。

| 将来像 | 主な取組内容 | 主な成果 |
|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 丹波のことは自分たちで決める仕組み 【将来像1】 | <ul style="list-style-type: none"> ・丹波地域ビジョン実現の具体的な仕組みと組織について検討を行った。 ・まちづくりフォーラムを開催し、地域づくり団体との連携を推進した。 ・集落や地域の自慢や魅力となる村自慢アンケート調査を実施してまとめ、「丹波地域わが町・わが村」を作成した。 ・むかしばなしを聞く会を開催した(57回)。 ・集落自慢大会M-1(むらワン)グランプリを共催開催した。 ・ニューリーダー塾(ひょうたん塾)を開講し人材育成を行った(平成17年度～平成20年度の塾生:計50名)。 | NPO法人「たんばぐみ」の設立 住民の地域への愛着の高まり 地域づくりを担うリーダーの養成 |
| 都会に近い田舎 【将来像2】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「たんば田舎暮らしフォーラム」等のイベントで田舎暮らし案内所を開設した(14回)。 ・田舎暮らし希望者を対象とした交流イベントを開催した。 ・地域の名木めぐりのルートマップを作成した。 ・ヒメボタルサミットを開催した。 ・里山マップの作成、里山見学会を開催した。 ・チェーンソー体験を開催した(2回)。 ・行政や企業等を対象としたバイオマス利活用講演会のほか、里山・森林講座を開催した。 | NPO法人「ほっと丹波」の設立 約700名の田舎暮らし情報提供希望者の収集 環境保護意識の向上 森林ボランティアの育成 |
| 多世代が支え合う豊かなコミュニティ 【将来像3】 | <ul style="list-style-type: none"> ・委員で「元気とどけ隊」を結成し、運動やゲーム等を高齢者と一緒に行うなど、高齢者の健康づくりを推進した。 ・高齢者の健康づくりウォーキングを実施した。 ・高齢者等の外出手段の確保に係るアンケート調査を実施して報告書をまとめ、老人会、関係団体等に配布した。 ・不登校・ひきこもりの家族、関係機関、支援者等を対象に不登校・ひきこもりを考えるフォーラム等を開催した。 ・不登校・ひきこもりの支援ネットワークづくりを進め、篠山市親の会の立ち上げを支援した。 | 高齢者の健康づくりの進展 不登校等の支援のネットワークの形成 |
| 幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動 【将来像4】 | <ul style="list-style-type: none"> ・食の復活サミット in 丹波を開催した。 ・丹波地域の食文化の発掘を目指した食材・薬草の調査を実施した。 ・丹波ブランドを全国に発信する組織の検討と丹波ブランドのホームページを開設した。 ・伝統食レシピの収集と普及促進、イベントでの伝統食のPRを行った。 ・地域の子どもたちと都市住民を対象に、古代米の田植えとかまど炊きご飯の試食会を実施した。 | 丹波食文化発信機構の設立(たんばぐみ内) 子どもたちに伝統食の普及 |

| 将来像 | 主な取組内容 | 主な成果 |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 無意識のうちにつくられているバリアがない地域 【将来像5】 | <ul style="list-style-type: none"> 自治会に出向いて男女共同参画の出前朗読劇を実施した。 障害者用トイレ調査を実施し、ホームページ「丹波篠山トイレマップ」を作成した。 診療所のバリアフリー化のアンケート調査を実施し、その結果を研修会等で報告した。 外国人研修生受け入れ工場を訪問し、雇用主と意見交換を行った。 在住外国人と住民との「ふれあい交流会」を開催した。 在住外国人に日本語学習支援や生活支援を行う人を養成するため、日本語教育ボランティア養成講座を開催した。 | 男女共同参画意識の向上 障害のある人が安心して暮らせる地域づくりの進展 多文化共生意識の浸透 日本語を教えるボランティアの養成 |

(2) 第5期丹波地域ビジョン委員会の取組内容

現在、第5期ビジョン委員会(101名)(平成21年度～現在)においては、次のような実践活動に取り組んでいます。

| 将来像 | グループ名 | 主な取組内容 |
|----------------------------|--------------|--------------------------------------|
| 丹波のことは自分たちで決める仕組み | 地域資源活用グループ | ・自然や歴史遺産等の保全・活用・調査の実施 |
| 都会に近い田舎 | 里山グループ | ・里山マップの作成 ・子ども向け里山体験の実施 |
| | 都市との交流グループ | ・田舎暮らし交流イベントの実施 ・移住者情報の収集 |
| | 環境グループ | ・佐治川環境調査の実施 |
| 多世代が支え合う豊かなコミュニティ | 高齢者と地域社会グループ | ・高齢者向けウォーキングの実施 ・高齢者の地域参加等の検討 |
| | 青少年健全育成グループ | ・不登校、引きこもり講演会の開催 ・遊びや学びの体験イベントの実施 |
| 幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動 | 農業グループ | ・有機野菜栽培体験「丹波の里塾」の実施 |
| 無意識のうちにつくられているバリアがない地域 | 男女共同参画グループ | ・男女共同参画紙芝居の上演 |
| | 国際交流グループ | ・在住外国人に関する自治会アンケート・意見交換会の実施 |
| | 障害者支援グループ | ・障害者団体との意見交換会の実施 ・障害者用トイレマップの更新 |



都市からの移住者交流会



高齢者向けウォーキング

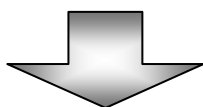
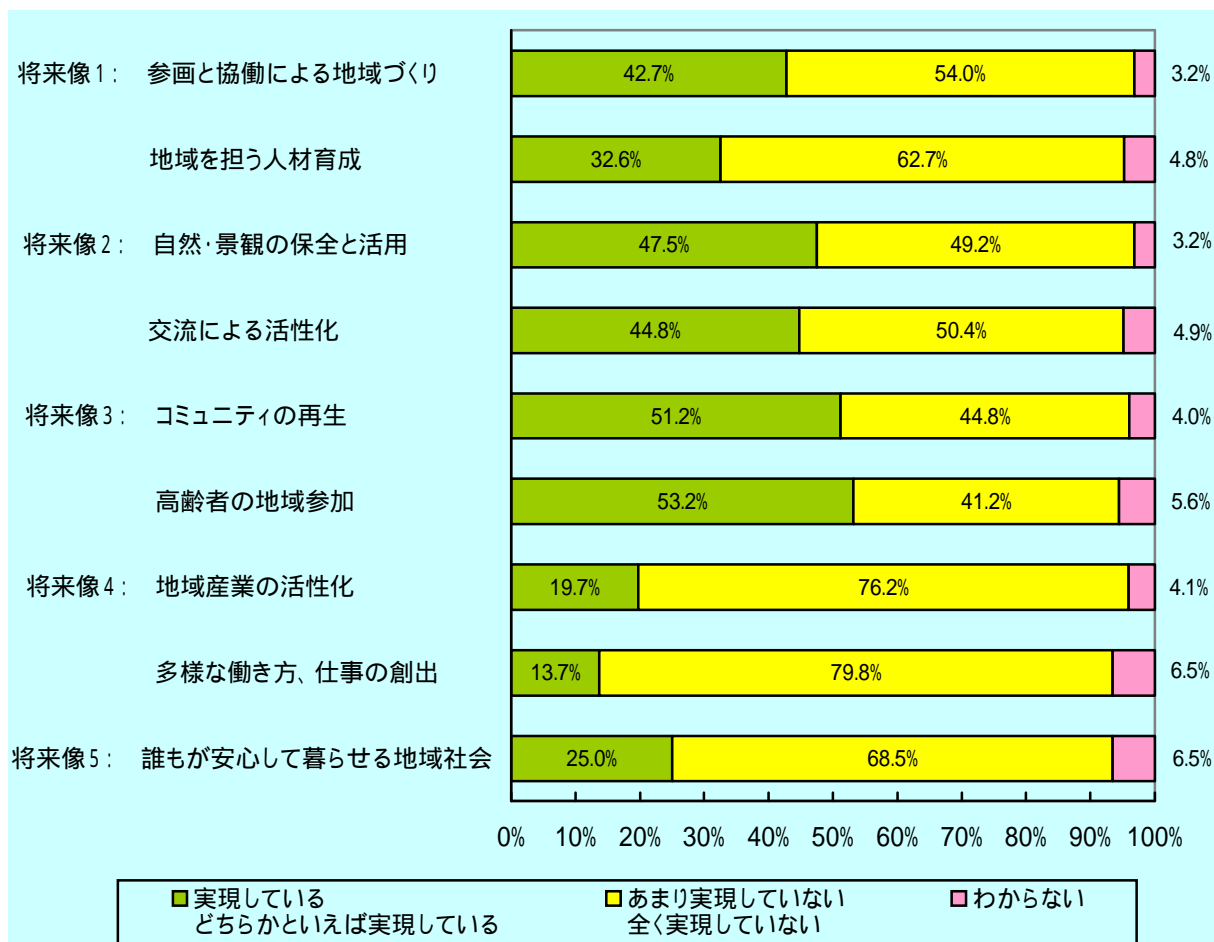


有機野菜の栽培体験

(3) 将来像の実現状況

地域の状況やビジョンの達成状況について、丹波地域ビジョン委員及び現行地域ビジョンを策定した元丹波の森夢 21 委員を対象にアンケート調査を実施しましたが、5つの将来像の達成状況は次のとおりとなっており、将来像1～3はかなり達成しているものの、将来像4と将来像5の進捗は相対的に低くなっています。

【設問：5つの将来像の実現状況について、該当すると思われるものを選んで下さい。】



将来像1の「参画と協働による地域づくり」「地域を担う人材育成」については、3割～4割が実現していると回答している。

将来像2の「自然・景観の保全と活用」「交流による活性化」については、5割弱が実現していると回答している。

将来像3の「コミュニティの再生」「高齢者の地域参加」については、半数以上が、実現していると回答している。

将来像4の「地域産業の活性化」「多様な働き方、多様な仕事の創出」については、7割以上が実現していないと回答している。

将来像5の「誰もが安心して暮らせる地域社会」については、7割弱が実現していないと回答している。

(4) 地域ビジョンの実現に向けた取組の成果

現行地域ビジョンでは、丹波地域に関わる人々の理想像として「森の市民」になることを提唱しています。「森の市民」とは、単に「丹波地域に住んでいる人」ではなく、地域内外を問わず、丹波地域に誇りと愛着を持ち、丹波の地域づくりに責任を持って行動する自律した人々等のことです。

地域ビジョンに描かれた将来像を実現するため、これまで400名以上のビジョン委員が「森の市民」として、地域内外の人々や団体と連携しながら、丹波地域の魅力づくりに取り組んできました。

このようなビジョン委員の取組を通じて、丹波地域の住民にも、自分たちの地域のことは自分たちが考えるという住民参画の意識が高まり、幅広い分野にわたって主体的・自立的な取組が展開されるようになりました。

地域ビジョンの実現に向けた取組の成果としては、次のようなことがあげられます。

地域を担う多様な人材の育成が進展

ビジョン委員会は、各委員がビジョンの実現に向けた実践活動を通じて地域づくりのノウハウやネットワークを広げる人材育成の場となっています。地域リーダーの育成を図る組織的な取組として「地域づくりニューリーダー塾」を運営し50名の塾生が巣立ち、様々な分野・地域で活躍しています。

委員の活動の中から、NPO法人たんばぐみ、NPO法人丹波まちづくりプロジェクト、NPO法人ほっと丹波など新たな組織を設立したり、各人それぞれが地域活動の場で活躍しています。



地域づくりニューリーダー塾

モデルとなる地域づくり活動が展開

住民の地域づくりへの参加意識の高まりを背景に、市民による創作オペラ「おさん茂兵衛」の上演、街道沿いの賑わいの復活を進める「日置軒先ミュージアム」の開催、恐竜・哺乳類化石等を活かした地域づくり活動など、地域の特色を活かした活動が展開されています。

また、小学校区単位で、自治会や老人会等の地域コミュニティが連携したまちづくり協議会や自治振興会等が設立され、県民交流広場を拠点として地域の課題解決や魅力づくりに向けた活動が進んでいます。



地域住民と小学生による手づくり丹波竜タイルアート（丹波市山南町）

団体間の協働による取組が拡大

ビジョン委員会自らの実践活動だけでなく、ビジョン委員会と自治会や地域づくり団体との協働による事業が行われることにより、活動の輪が広がり、地域の課題解決に貢献するとともに、地域でのノウハウの蓄積と住民への意識啓発にも効果をあげています。

例えば、ビジョン委員による自治会での男女共同参画出前紙芝居の実施や子ども会での昔話を聞く会の開催は、自治会における意識改善や子どもたちの地域への愛着を高めるきっかけになりました。

また、ビジョン委員会と国際交流支援団体との連携によるフォーラムの開催により、地域住民と在住外国人との相互理解が進んでいます。



男女共同参画紙芝居

住民提案型の地域づくりが普及

丹波地域ビジョンは、住民自らが議論を重ね、自分たちの地域の将来像とその実現方策をとりまとめたものですが、篠山市におけるまちづくり100人委員会による住民参加のまちづくり提案にみられるように、主体的な住民参加の取組が進んでいます。



丹波の森夢会議で住民等が丹波の魅力を議論

4 丹波地域の新たな課題について

少子高齢化等の社会経済情勢や地域環境が変化する中で、丹波地域の将来像について住民等が話し合う丹波の森夢会議や各期のビジョン委員長や学識者等で構成する地域ビジョン検討委員会、各種団体との意見交換の場であるたんば夢フォーラムでの議論、各種団体等へのアンケート調査の結果等から、次のような新たな課題が明らかとなりました。

住民の地域づくりへの参加

丹波地域では、人々の地域活動やボランティア活動への参加意識が高く、様々な地域づくり活動が進められてきました。今後、社会問題が多様化する一方、行政において厳しい財政運営が続くことが予想されることから、地域づくり活動を一層進めるため、住民と行政、また、住民相互の地域課題に関する情報共有を進めるとともに、住民誰もが様々な形で参画できる仕組みを整えていく必要があります。

豊かな自然と景観の保全

丹波地域が有する豊かな自然と美しい景観はかけがえのない財産となっていますが、一方では、過疎化・高齢化の進行、担い手不足等により森林・農地の荒廃等が見られます。

丹波地域で昔から受け継がれてきた自然や景観、そして、それらと調和した暮らし方を再認識し、次代に引き継いでいく必要があります。



生物の交差点（氷上回廊）

都市部や京都丹波等との交流・連携

田舎暮らしが見直され、丹波地域の豊かな自然や景観、食と農、伝統文化、素朴な人情や近隣とのふれあいに囲まれながら、ゆったりと過ごす暮らし方は、都会人にとって大きな魅力となっています。これらの地域資源や田舎暮らしを発信し、交流人口の拡大や定住促進につなげていく必要があります。

また、都市部の住民や企業・大学等と連携して、地域住民が管理してきた山や里の空間を活用していくことも必要です。

さらに、歴史的・文化的につながりが深い京都丹波等と広域的に連携していくことにより、地域間や都市部との交流が進むことが期待されています。

子育て環境づくり

少子化が進み、若い親たちが安心して子育てができる環境が求められています。

また、子どもが丹波地域で培った豊かな体験は、ふるさとへの愛着を高めるきっかけとなるとともに、環境や自然に対する意識を高め、地域づくりの担い手の育成にもつながります。子どもたちが健康で伸び伸びと育ち、学ぶことができる環境を整えるとともに、かつてのコミュニティのように地域全体で子どもを育てていく環境の復活が求められています。



まちの子育て広場

高齢者の社会参加

高齢者単身世帯が増えているなかで、高齢者が健康で、地域コミュニティの一員として、住み慣れた地域で生きがいを持って暮らせる地域づくりに取り組んでいく必要があります。

また、高齢者が安心して病院や買い物に行ける交通手段を確保する必要があります。

農林業・地域産業の振興

農林業の盛んな丹波地域でも、その担い手や後継者の不足が見られます。一方では、農業の見直し気運が高まり、若者層や定年帰農を中心とした新規就農希望者が着実に増加しています。さらに、農林業を新たなビジネスと捉えた取組も増えています。

これら農林業の多様な担い手を育成するとともに、農地等の有効活用や有害鳥獣対策を講じながら、農林業の活性化に取り組んでいく必要があります。

また、人口減少や景気の低迷等により停滞が続く地域産業について、地域ブランドを活かしたり、地域の特性を踏まえたものづくりを進めるなど、産業の活性化を図り、雇用を創出していく必要があります。



新規就農者を対象とした研修会

多様な働き方等の促進

仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を重視する働き方が求められるとともに、個人のニーズが多様化していることから、ライフステージに応じた多様な働き方の提案や社会的起業の促進を図ったり、個人の能力が十分に発揮できる環境づくりを通じて多様な地域活動を活性化していくことが必要です。

ICTの活用

情報通信基盤が整備され、ICTが著しく進展して、誰もが使いやすい情報機器も急速に普及していることから、産業はもとより、医療、コミュニティ等の幅広い分野で、積極的な活用を図っていく必要があります。

また、地域ぐるみでICTを活用し、地域全体の情報発信能力や情報リテラシー（情報活用能力）を向上していく必要があります。

若者の定着

少子高齢化が進む中で、丹波地域では、依然として若年層の流出が続いています。地域の新しい担い手となる若者を定着させていくためには、産業を活性化して雇用の場を創出するとともに、地域活動等での活躍の場や若者同士のふれあいの場づくりを進め、若者にとって魅力ある地域づくりを進めていく必要があります。

安全安心な社会づくり

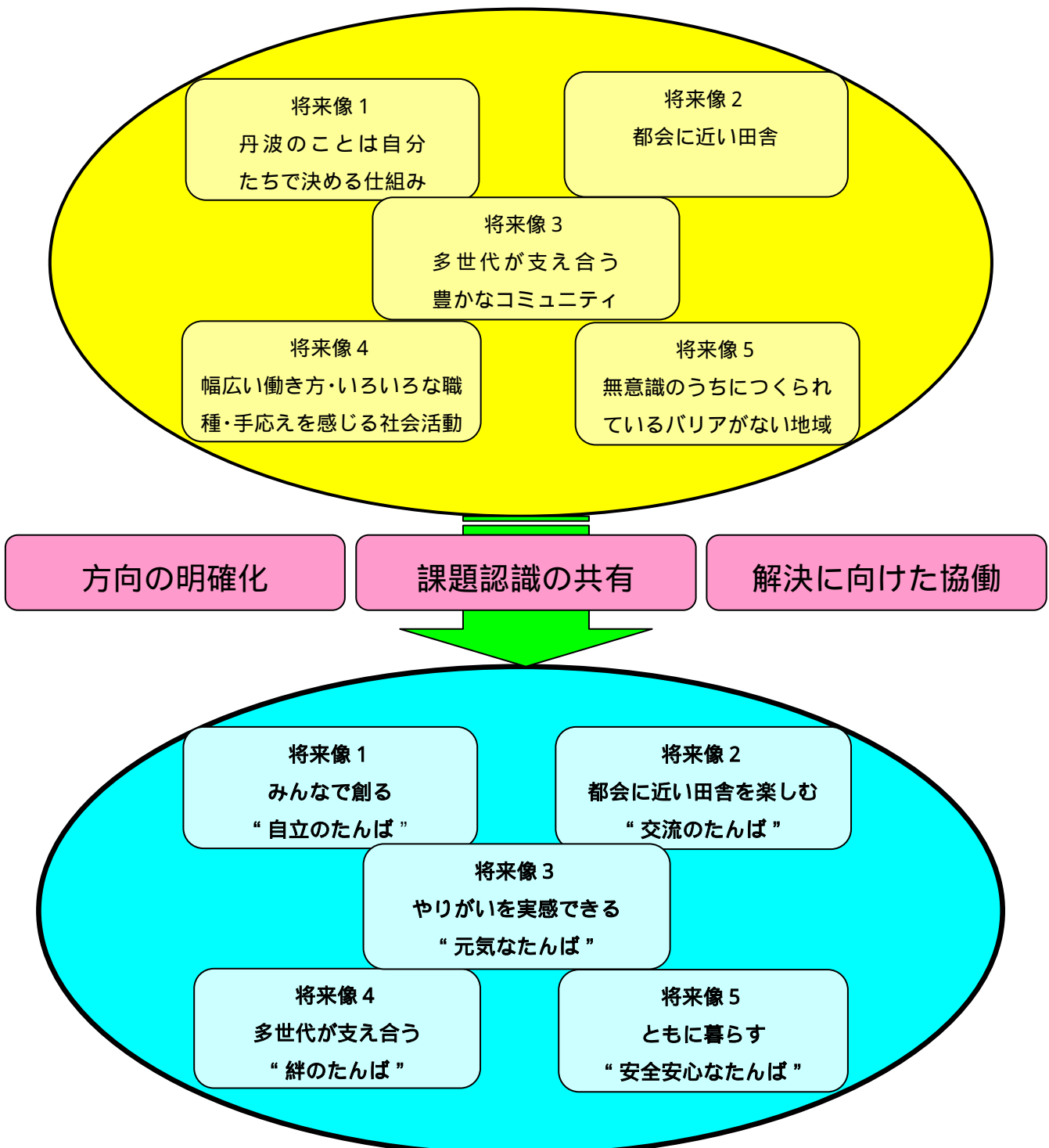
障害のある人、高齢者、外国人、女性、子どもなど、年齢・性別等を問わず誰もが安心して暮らせる地域の実現が求められています。

また、自然災害や犯罪に対応するため、地域ぐるみで防災に対する備えや防犯活動に取り組むとともに、地域医療を支える取組を進めていく必要があります。

5 丹波地域の将来像について

丹波地域を取り巻く状況変化と明らかになってきた様々な課題を踏まえて、将来こうあってほしいという丹波地域の将来像について検討を行いました。

「丹波の森構想」等を踏まえて策定された現行地域ビジョンに掲げる5つの将来像等の基本的な方向性については、「自立」「環境保全と交流促進」「豊かなコミュニティ」「多様な働き方」「ユニバーサル社会」等の視点からまとめられており、策定後10年を経過した現在でも基本的な方向は変わりませんが、だれもがわかりやすい方向を明確にすることにより、地域ビジョンの実現に向けた課題認識を共有し、その解決に協働して取り組んでいけるよう、将来像を見直しました。



新たな5つの将来像

- 将来像1 - みんなで創る“自立のたんば”

「たんばは自分たちで創る」「自分たちのことは自分たちで決める」を基本姿勢として、住民自らが地域の魅力に気づき、地域への愛着を深め、積極的に地域づくりに取り組んでいます。

また、社会や日常生活のあらゆる所で住民や団体のネットワークが張りめぐらされ、多彩な人材が集落や地域づくりを支えています。

- 将来像2 - 都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

身近な自然で環境の大切さを学ぶことができ、地域の美しい自然や景観、そして、豊かな田舎暮らしのライフスタイルが引き継がれています。都会からの交通の便もよく、丹波地域内外の人々と活発な交流があり、地域の活力が生まれています。

また、多くの人々が丹波地域の魅力に引き寄せられ、「丹波ファン」の輪が広がり、日帰り観光から週末等の短期滞在、さらに定住人口も増えるなど、様々な形を通じて丹波地域へ人々が集まっています。

- 将来像3 - やりがいを実感できる“元気なたんば”

丹波地域の特産品が全国ブランドとして確立し、生産・流通・消費が拡大して、新たな担い手が生まれることで、農林業が再び盛んになって地域の産業をリードしています。

また、食・自然をはじめとした丹波地域の魅力が広く知られ、観光客を含め多くの「丹波ファン」が丹波地域を訪れています。

丹波地域の特色ある地域資源を活かしたビジネスや地域づくり活動が活発に展開され、地元で働く若者が増えたり、住民の活躍の場が広がっています。

- 将来像4 - 多世代が支え合う“絆のたんば”

地域のコミュニティが若い世代のリーダーシップのもと、経験豊かな高齢者の知恵ややる気を活かすことにより再び賑やかになり、次代を担う子どもたちも、豊かな自然や心やさしい地域の人々に囲まれ、元気で心豊かに育っています。

また、高齢者は年齢に関係なく、生きがい・やりがいを持って仕事や地域活動など幅広い分野にわたって「生涯現役」で活躍しており、子ども・若者・高齢者の各世代がともに地域の暮らしを支えています。

- 将来像5 - とともに暮らす“安全安心なたんば”

国籍、文化、性別、年齢等の違いや障害の有無に関わりなく、だれもが助け合いながら自分の持てる能力を発揮し、開かれた地域社会の一員として、いきいきと暮らしています。

また、人々の笑顔の源である健康づくりの輪が広がり、地元で取れた安全な農産物が地元で使われ、災害や医療・福祉に対する不安も解消し、トータルに安全・安心な生活を送っています。

6 新たな将来像を実現するための取組の方向

5つの将来像を実現していくためには、丹波地域の住民、団体、企業、行政等が地域ビジョンの理念等を共有し、主体的に取組を進めていくことが必要です。

丹波地域が持つ魅力ある資源を最大限活用し、さらに丹波地域の魅力を創造していくための取組の方向を、丹波の森夢会議や地域ビジョン検討委員会等の議論をもとに、5つの将来像ごとにあげると次のようになります。

| 将来像 | 将来像の実現に向けた取組の方向 |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| みんなで創る “自立のたんば” | 地域の魅力発掘と情報発信 地域を担う人材の育成 地域づくりへの住民参加の推進 地域で活動する団体の連携推進 |
| 都会に近い田舎を楽しむ “交流のたんば” | 森・川・里の豊かな自然の保全と活用 環境に優しい地域づくりの推進 環境学習フィールドづくり 美しい景観づくりの推進 都市との多彩な交流の推進 丹波の田舎暮らし情報の発信 |
| やりがいを実感できる “元気なたんば” | 地域の産業をリードする農林業の振興 商店街の活性化・ものづくり産業の振興 丹波の魅力を活かしたツーリズムの推進 地域の資源を活かした「しごと」の創出 地域づくり活動・文化活動の推進 若者の就労促進 |
| 多世代が支え合う “絆のたんば” | 地域コミュニティの再生 地域ぐるみでの子育て推進 高齢者が安心して暮らせる地域づくり 高齢者が活躍できる地域づくり |
| ともに暮らす “安全安心なたんば” | 誰もが暮らしやすいユニバーサル社会の実現 障害のある人も外国人も共に暮らす地域社会の実現 医療や健康、食の安全が確保された安心な地域の実現 災害に強く、犯罪のない地域づくりの推進 |

地域の魅力発掘と情報発信

住民自らが自然や歴史・文化、暮らしといった様々な地域の魅力を発見し、地域への愛着を深め、丹波地域の誇りの復権を目指していきます。

地域内外の人々や団体の意見を参考にしたり、交流・連携しながら、地域の魅力を広く情報発信していきます。

【提案】

地域の資源を発掘・発信しよう

- ・まず、地域の中で情報を共有する
- ・若者や都市住民が参加して地域資源調査を実施し、新たな視点から資源を活かした祭り（丹波美味しいもんまつり）を行ったり、手づくりのマップやガイドブックをつくる
- ・自治会と大学との連携を進める（大学生の若い発想や教員の専門的な知識を活用）
- ・進学や就職で丹波地域から転出する若者に、食の魅力発信など「広報大使」の役割を担ってもらう
- ・都市間競争に負けない情報発信力を身につける（マーケティング＜顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその商品を効果的に得られるようにする活動＞の視点で情報を評価・加工する）

ICTを活用しよう

- ・インターネットやツイッター等を活用して丹波地域の特色ある地域行事、イベント等を発信する
- ・情報化時代のコミュニティを設計できる人材の交流組織を立ち上げ、メーリングリスト（複数の人に同時に電子メールを配信する仕組み）で情報交換できる体制と意見交換する場をつくる

【地域の活動例】

恐竜化石を活かした地域づくり ～上久下恐竜の里づくり協議会～

平成18年の丹波竜化石の発見を機に、有志が集まり、化石を活かした地域づくりに取り組んでいる。

間伐材を使っての等身大の丹波竜モニュメントの作成、活動拠点施設での地元野菜や恐竜焼きの販売、300人による化石発掘大会を実施。情報を共有するための「恐竜の里新聞」の発行やホームページも開設している。

来訪者を積極的に受け入れて交流を推進するとともに、新たに企業組合を設立して事業化に取り組んでいる。



空き家の古民家を改修し宿泊施設、フレンチレストランとして活用 ～集落丸山～

篠山市丸山集落は、12戸の山間の集落で、このうち7戸が空き家となっていたが、地域でNPO集落丸山を設立し、茅葺屋根や石垣、白壁土蔵等の昔ながらの農村風景を活かして、空き古民家を宿泊施設等として活用している（平成21年9月～）

地元の自然食材を使った料理が味わえるほか、集落内にはフランス料理店や手打ちそば屋もあり、耕作放棄地を市民農園として活用するなど、新しい農村の生活スタイルを発信している。



地域を担う人材の育成

地域の多様な主体が連携・協力しながら、地域を支える人材の育成に取り組みます。

また、若者や子どもたちに、地域行事や里山等での自然体験等への参加の機会を増やしていき、地域への愛着を高めながら、地域の良さと誇りを語り継ぐことで将来を担う人材の育成につなげていきます。

【提案】

団体等の連携・協力で担い手を育成しよう

- ・専門性を持つ団体と連携して、リーダーを育成する
- ・地域づくり活動に取り組む人へのノウハウの提供とバックアップの仕組みをつくる
- ・長期的な視点から見たリーダーの育成やリーダーシップが発揮できる場をつくる
- 地域を担う若者・子どもを育てよう
- ・若者が地域の祭りや自治会行事に自発的に参加していくような取組をする
- ・里山の観察や生物調査、川遊び等の自然体験イベントを実施する
- ・学校で地域活動を学ぶことのできる機会（農業体験・化石発掘体験等）を増やす

【地域の活動例】

丹波の夢ビジョンの実現への取組 ～NPO法人たんばぐみ～

丹波に愛着をもち、地域づくりに積極的に参加する自律した「森の市民」の育成を図るとともに、丹波地域のまちづくり、地域の活性化、丹波地域の環境保全を進めることを目的に、第1期丹波地域ビジョン委員が中心となって設立。

「自分たちのことは、自分たちの手で」をモットーに、丹波産ブランド「たんばる」の普及振興、丹波地域の田舎暮らしの全般のサポート業務のほか、地域のネットワークを生かしての中間支援、広報サポート活動を行っている。



地域づくりへの住民参加の推進

住民一人ひとりの能力や知識・経験を、魅力ある地域づくりに結びつけていけるよう、住民が情報を共有し、地域づくりに参加しやすい仕組みづくりを進めます。

【提案】

地域づくりへ参加する人を増やそう

- ・自治会の取組を発表し、意見交換する場をつくる
- ・地域住民が地域づくりの提案をすることができる場をつくる
- ・自治会役員の負担を減らしたり、若い役員を増やす取組をする
- ・住民主体のプロジェクトによる特産品開発と知的財産づくりをする

地域で活動する団体の連携推進

各分野、各地域で活動している団体やグループ、ボランティア等の交流・連携を進めていくことにより、個々には対応できなかった課題の解決や活動の輪を広げ、地域づくり活動の活性化を進めていきます。

【提案】

地域団体等のネットワークをつくろう

- ・地域団体の横のつながりを確認するための協議会やネットワークをつくる
- ・各団体のリーダー同士やグループ同士の交流を深め、地域づくりの力を強化する

森・川・里の豊かな自然の保全と活用

丹波地域は、多紀連山をはじめとする山々や加古川、武庫川、由良川の源流、盆地に広がる田園など豊かな自然環境に恵まれています。さらに、日本一低い分水界を通じて日本海側と太平洋側の生物が行き交う「氷上回廊」など生物多様性の豊かな地域でもあります。

都市住民や企業等とも連携し、これらの自然の保全・再生を図るとともに、自然とのふれあいの場をつくるなど、丹波地域の自然に対する理解を深めるための学習の場として活用しながら、豊かな自然を保全し、次代に引き継いでいきます。

【提案】

自然を守り育てよう

- ・森林整備や里の保全に都市住民を参画させる
- ・高齢者の技術を活用できる場やそれが収入につながる仕組みをつくる
- ・日役が社会貢献・環境貢献活動という重要なことであるという認識を地域で共有し、若者が自発的に参加するような意識改革をする
- ・里山や河川の希少な生物（オムツヅク、オムツヅク、オムツヅク、クワガタ等）を守り育てるため、企業や団体等にサポーターとして寄付してもらおう仕組みをつくる
- ・各校区ごとにビオトープをつくって子どもから大人まで学べる地域の学習の場とする
- ・上流域と下流域の連携で森林整備を進めよう
- ・加古川流域の企業・団体に出資を呼びかけ、上流の丹波地域の森林管理を行う
- ・川文化を再生しよう
- ・子どもたちが川遊びを楽しめる川を取り戻すため、住民等で川を清掃し川遊びイベント（魚の掴み取り、カヌー、筏下り等）を開催する
- ・加古川再生のシンボルとして、佐治川のバイカモを再生する仕組みをつくる

【地域の活動例】

企業等との連携による森・里づくりの推進

丹波地域では、集落と都市部の企業やNPOが協定を結び、里山での間伐や枝打ち、遊歩道整備などの保全活動、集落との交流会等が行われています。

- ・三菱電機(株)神戸製作所と油井生産森林組合（篠山市油井）
- ・NPO法人エコラ倶楽部兵庫支部と曾地中自治会（篠山市曾地中）
- ・アサヒビール(株)西宮工場と遠阪森づくり協議会（丹波市青垣町遠阪）
- ・(株)阪急阪神交通社ホールディングスと宮代自治会（篠山市宮代）
- ・三菱重工業(株)神戸造船所と(財)神楽会大名草区（丹波市青垣町大名草）
- ・東洋電機(株)と成松連合区（丹波市氷上町成松）



環境に優しい地域づくりの推進

丹波地域は、環境に優しい農業、環境に優しい暮らしを展開するのに適した地であり、住民の環境意識を高めながら、環境に負担をかけない農業や環境に優しいライフスタイルを提案するとともに、環境ビジネスの育成・支援を推進していきます。

【提案】

環境に優しいライフスタイルを広めよう

- ・JRの駅や観光施設を拠点としたサイクリングロードを整備してイベントを行う
- ・家庭や地域で生ごみを減らしたり、肥料として再資源化する取組をする

- ・ 農薬や化学肥料に頼らない環境に優しい農業を推進する（有機農法勉強会の開催など）
自然エネルギーを広めよう
- ・ 太陽光発電や木質バイオマス等に関する環境学習の機会を増やす
環境ビジネスを育てよう
- ・ 間伐材を利用した木質チップなど木質バイオマスの利用を増やす取組をする
- ・ 遊休農地を活用したバイオ燃料作物（菜の花など）の栽培を進める

【地域の活動例】

バイオマスエネルギーの啓発・普及・実用化の取組 ～NPO法人バイオマスフォーラムたんば～
自然環境の保全、再生可能なエネルギーの啓発・普及・実用化に向けた活動に取り組んでいる。

丹波に大量にある間伐材を使ったバイオマス発電を研究するとともに、子どもたちが遊べる「里山ごんげんさん」を他のNPO法人と協力して整備している。また、森林・里山についての講習会・イベント、バイオマスエネルギー普及のためのフォーラム等も実施している。



環境学習フィールドづくり

丹波地域の豊かな自然を守っていくため、身近な自然環境への意識を高めていけるよう、環境学習の場として活用していきます。

また、貴重な化石の発見が続く篠山層群を、生物多様性や地球環境等について学ぶフィールドとして活用するとともに、環境学習拠点機能を強化していきます。

【提案】

環境学習を進めよう

- ・ 山仕事を環境学習の場として活用する
- ・ 自然系のサークルの連携を進め、調査・研究等を共有し、活動に活かしてもらう
- ・ 丹波の豊かな自然や恵みを伝える環境学習ボランティアを育てる
- ・ 子どもたちが自由に山や川へ入れるような環境づくりを進める

環境学習の拠点をつくろう

- ・ 身近な地域の自然や施設を活かした環境学習のネットワークをつくる
- ・ 化石や篠山層群の地層について解説できるボランティアガイドを育てる

【地域の活動例】

大路こどもの森の整備

地域みんなで山を整備し、子どもたちが遊べる環境を取り戻すシンボルにしようと、地元住民で構成する認定こども園三尾の森おおじ運営協議会が企画。春日町森林同好会や大路地区自治協議会、丹波地域ビジョン委員会里山グループ等が連携し、荒れた森林を整備し、遊具等を設置した。



美しい景観づくりの推進

緑豊かな丹波地域らしい風景・農村景観は、農業や林業を営む人々等によって支えられていますが、こうした景観を守るため、沿道・地区・山林・農地の景観づくり、歴史的建造物の保全・再生や建築物の修復等に取り組むとともに、清掃美化運動を積極的に進め、美しい地域づくりを進めます。

【提案】

- 住民による景観づくりを進めよう
- ・地域資源等を活用して魅力的な道路景観づくりを進める
- ・若者等が街あるきに参加して景観への提案をしてもらう
- ・校区や集落単位で開花時期の異なる花を植える取組をする
- ・地域ぐるみでモミジ等（丹波の固有種）の植樹活動を進める（マイもみじ運動等）
- 景観を守り育て、再生しよう
- ・伝統と歴史を有する街並みの保存や再生を地域内外の住民が協力して行う
- ・地域住民とNPO等が連携して地区の景観ルールづくりや建築物の修復を行う
- ・基金を募ってその原資で里山や棚田等の保全活動を行う

【地域の活動例】

篠山まちなみ保存会

平成16年の国の重要伝統的建造物群保存地区の指定を契機に、保存地区の住民が保存会を結成。保存会では、市、建築士、施工業者、NPO等と連携を図り、まちづくりに関する研修会や修理現場見学会、保存地区の諸問題に関する調査・研究を行うなど、保存地区の個性的で魅力あふれるまちづくりを積極的に推進している。



田んぼアートを通じて地域づくり ～丹波ささやま農（みのり）塾 ほか～

稲穂の色の違いによって田んぼに絵が浮かび上がるのを楽しむ田んぼアート。子ども等の田植えへの参加や食育、地域への集客など、地域づくりへの活用が期待されている。

篠山市内では、平成22年に市内6地区（城北、日置、福住、大山、味間、今田）がそれぞれの地域の願いを表現したアートを作成し、9～10月には「田んぼアートめぐり」を開催した。

また、丹波市内でも、大型草食恐竜の化石が発見された丹波市山南町上滝で、恐竜の姿をかたどった田んぼアートを作成している。



都市との多彩な交流の推進

豊かな自然環境、全国に誇る特産農産物、伝統的な街並み、恐竜化石等の地域資源に加え、農業体験や地域の祭り・食イベント、地域住民のおもてなしの心を通じて、都会に近い田舎という利点を活かしつつ、人々の心や生活を豊かにする田舎暮らしのライフスタイルを積極的にPRし、都市との交流を進めます。

また、都市住民とも連携しながら、空き家、空き店舗、耕作放棄地など空き空間の活用を図り、田舎暮らしの環境整備を進め、様々な交流活動を通して地域の活性化につなげていきます。

【提案】

- 都市住民との交流を進めよう
- ・里山案内人グループをつくって、里山での交流を進める
- ・都市住民と地元をコーディネートできる団体等を育成する
- ・JRの駅や車両を活用した農産物販売や丹波の魅力の紹介コーナーを設置する
- 交流ノウハウを共有しよう
- ・農業交流について、きっかけづくりやスタートに当たってのノウハウを提供する
- 空き空間や遊休施設を活用した交流を進めよう
- ・空き家や空き店舗、廃校など遊休施設を交流の拠点として活用する

【地域の活動例】

空き空間を活用した交流拠点づくり ～ 関西大学佐治スタジオ～

平成 19 年度に関西大学と丹波市が連携協定を締結。大学が丹波市青垣町の空き家を借り受けて、活動拠点として再生。大学スタッフが半常駐し、同市をフィールドに教育研究活動を展開している。

空き家の再生に当たっては、地域住民と連携しながら改修を行い、滞在型交流プログラムの実施や地域行事への参加等も行っており、交流拠点としての利用が広がっている。

《その他の大学と連携したまちづくり》

- ・神戸大学篠山フィールドステーション（篠山市と連携し、まちづくり、産業振興、人材ネットワーク構築を推進）
- ・関西学院大学柏原スタジオ（柏原地域の中心市街地の活性化に向けた調査研究、地域活動を実施）
- ・兵庫県立大学山南スタジオ（篠山層群をエリアとした化石や自然環境保全、まちづくり等についての調査研究、地域活動を実施）



丹波の田舎暮らし情報の発信

食や自然、丹波らしいライフスタイル、アクセスの良さなど丹波地域ならではの強みや魅力を情報発信して、観光、農業体験、週末等の短期滞在等を通じて様々なタイプの交流人口を増やすとともに、地域の人や先輩移住者との交流の機会を設け、生活や医療、福祉等のきめ細かな情報を提供することにより、交流を活発にするとともに定住に結びつけていきます。

また、定住の受け皿として、地域で増加している空き家等を有効活用する取組を進めます。

【提案】

田舎暮らしの情報を発信しよう

- ・自給自足の聖地として丹波の暮らしをPRする
- ・田舎暮らし希望者を対象とした田舎暮らしの紹介や相談を行う交流イベントをする
- ・移住者のネットワークをつくり定住者を増やそう
- ・移住者相互の交流を深める交流会を行い、移住者のネットワークをつくる
- ・田舎暮らしの応援団として先輩移住者による口コミでのPR活動を進める
- ・交流 半定住 定住と段階的な移住支援を行う
- ・健康・福祉・介護の取組を情報発信し、高齢者をはじめとする移住人口増加を進める
- ・空き家等を活用しよう
- ・地域に増加している空き民家の実態を掴み、希望者へ情報提供する
- ・空き家を活用した田舎暮らしの交流拠点をつくる
- ・空き家等を地域で管理する仕組みをつくる

【地域の活動例】

丹波の魅力発信し、たんばの田舎暮らしを推進 ～ NPO法人ほっと丹波～

ビジョン委員会の「都市との交流・若者定住グループ」のメンバー（移住者、地元住民）が中心となり、「NPO法人ほっと丹波」を設立し、各種交流イベントを開催したほか、交流人口や定住人口の増に取り組み、「丹波暮らし」の魅力発信や空き家情報提供等に取り組んできた。さらに、空き家の活用や移住後の相談等にも取り組んでいるほか、ビジョン委員会とともに「移住者交流会」を開催し、「移住者ネットワーク」や情報交換できる「交流拠点づくり」に取り組んでいる。



地域の産業をリードする農林業の振興

丹波黒大豆や丹波大納言小豆など全国的に知られる丹波ブランド、地域の75%を占める豊かな森林など農林業は丹波地域を代表する産業であり、生命を支える役割も果たしています。

高い品質を有する農産物の安定生産とブランド力の向上をはじめ、生産から加工・流通・販売まで行う「農業6次産業化」や地域の産物を地域内で消費する「地産地消」の推進を図るとともに、農地の有効活用や有害鳥獣対策に取り組みます。

また、地元産木材の利用促進を図るとともに、間伐や林内路網の整備により木材の適正利用を推進して多面的機能が発揮できる林業の育成に努めます。

他産業からの参入や定年帰農等の新規就農者を地域外から積極的に受け入れるとともに、農業の新しい生活スタイルの提案を通じて、夢のある農林業のビジョンを示すことにより農林業の後継者や新たな担い手の育成を図ります。

【提案】

丹波ブランドを開発・強化しよう

- ・ブルーベリー、黒ごま、実えんどうなど新たなブランドを開発し、商品化を進める
- ・生産技術の向上に向けた研修会を開催したり、産地表示を統一できるようにする
- ・丹波の特産物がもっと知られるような効果的なPRを行う

農業の6次産業化等を進めよう

- ・農業体験や農家民宿等を利用したグリーンツーリズム（農山漁村地域で自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動）を進める
- ・農家レストラン・アンテナショップを開設したり、直売所を充実させる
- ・加工技術の向上に向け、生産農家と加工グループ等との情報交換を行う
- ・ICTを活用して販路開拓や生産者と小売店のネットワーク化を進める
- ・丹波産農産物等を利用しているレストランを「丹波味の店」として認証する
- ・農産物の売上げの一部を地域に還元する仕組みを作って商品売り出す
- ・料理専門学校等を誘致して、若者の定着と特産品開発を進める

地産地消を進めよう

- ・学校給食で地域食材の利用を増やし、食育を推進する
- ・地元料理店で地元食材の利用を増やしたり、店舗等の地元農産物コーナーを拡大する
- ・料理コンテストや料理教室の開催を通じて地元の旬の食材を使ったレシピを広める

有害鳥獣対策を進めよう

- ・シカ肉を学校等へ提供したり、レシピを紹介するなど「野生動物をおいしく食べる運動」を進める
- ・狩猟や野生鳥獣の捕獲に対する理解を深める研修会を行う
- ・捕獲した有害鳥獣の一時保管施設や処分施設をつくる

森林をビジネスにしよう

- ・家庭での木質チップ・薪ストーブの利用を増やし、丹波型ライフスタイルを提案する
- ・地元産の木材を使った机を開発し、学校や家庭で使ってもらおう
- ・公共施設の建築材として地元産の木材利用を進める

農林業の担い手を育てよう

- ・やる気のあるUターン・Iターン者を担い手として受け入れ、育成する
- ・就農希望者への農地斡旋や技術向上の助言を地域ぐるみで行う
- ・「イケメン」農業や「ガールズ」農業を紹介し、「かっこいい」農業を発信する
- ・農がいのちを育てているという役割を子どもの頃から教えていく
- ・木を「植え、育て、伐る」施業を企画できる林業プランナーの育成研修会を行う
- ・新農業団地をつくり、移住者を増やす

【地域の活動例】

丹波ブランド、地産地消の推進等 ～NPO法人いちじま丹波太郎～

丹波市市島町のNPO法人いちじま丹波太郎では、地元の食材（有機野菜、米粉を使った加工食品など）を地元で消費する「循環型の地域社会」を推進している。

販売所での直販から阪神方面まで出向いての出張販売やネット販売を行うほか、都市部で開催される就農フェアで相談ブースを設けたり、希望者の住まい・農地探しの手助け等の就農支援を行うなど、都市の消費者との農業を通じた交流も行っている。

また、地元で、若手農業者による有機野菜等の販売イベントを毎月開催し、地域の活性化と新たな販路開拓に取り組んでいる。



「木材コーディネーター」による森林資源の活用 ～NPO法人サウンドウッズ～

木材の生産者と、建主である消費者との間に入り、育林から伐採・製材、建築までを一貫して差配する「木材コーディネーター」の育成は、地元産材利用促進の画期的な取組として注目されている。

丹波を拠点として、木材の有効活用の提案や消費者とのネットワーク化の支援を行い、健全な森林づくりを通して環境保全意識の向上に貢献している。



商店街の活性化・ものづくり産業の振興

大規模小売店の郊外出店や消費の低迷等により厳しい状況にある商店街の再活性化を図るため、地域内外の団体・NPO・企業と連携・協力しながら、空き店舗の活用、ICTの活用によるアンテナショップやマーケティングなど丹波地域オリジナルのビジネスプランを提案し、事業化を進めます。

また、ものづくり産業を振興するため、農業関連産業など地域特性を活かした企業誘致を進めるとともに、企業の独自技術等の強みを活かしながら農商工連携や第二創業を支援していきます。

【提案】

空き店舗等を活用してまちなかを再生しよう

- ・町屋、古民家を改修して、独創的なギャラリー、工房、アトリエ、レストラン、カフェ、ショップ等をつくる
- ・商店街に子育て支援施設をつくる
- ・魅力のあるイベントや商品をつくろう
- ・たくさんの若い人に来てもらうため、イベントに磨きをかける
- ・地域の魅力や特産品等を組み合わせた商品開発をする
- ICTを活用しよう
- ・大手のネット販売サイトへ出店するなどICTを活用した販路開拓を行う
- ・起業や第二創業を支援しよう
- ・起業を育成する起業塾を行ったり、起業者が集まって異業種交流会を開催する
- ・技術を高め、ネットワークをつくろう
- ・大学や研究機関と連携して新たな技術の開発を支援する
- ・丹波地域の強みである食と農の分野について、地域の食材、人材、技術等の資源を有効に結び、新たな製品、新たな販路、新たな地域ブランド等を創出するためのネットワークをつくる
- ・地域特性を活かした企業を誘致しよう
- ・丹波地域の特産品を活用できる企業を誘致する

【地域の活動例】

空き施設を活用した柏原中心市街地の活性化 ～（株）まちづくり柏原～

丹波市・柏原町商工会をはじめ、地域の事業者、市民、企業の出資により設立された、(株)まちづくり柏原は、歴史文化資源やこれまでに整備されたインフラを有効活用しながら、柏原中心市街地の活性化を図っている。

空店舗対策・テナントミックス事業として、町屋再生による店舗（イタリア料理・和食料理店、鹿肉専門店、ギャラリー、複合ショップ）の運営や斡旋等を行っている。



丹波の魅力を活かしたツーリズムの推進

丹波地域は、栗、黒大豆、山の芋、猪肉等全国に知られた特産農産物や「食」、由緒ある社寺、古い街並み、四季折々の自然や田園景観等の観光資源に恵まれています。発掘が進む恐竜化石も、全国に誇れる「本物」の観光資源です。これらに加え、丹波地域ならではの生業や暮らし、人情を含む資源を再発見して磨き上げ、丹波地域の魅力として発信し、地域内外で「丹波ファン」を増やしていきます。

さらに、京都丹波等とも連携しながら、これまでの日帰り観光中心から周遊・滞在型観光を目指すとともに、リピーターの確保にも取り組み、これを週末等の短期滞在、定住促進へとつなげていきます。

【提案】

広域観光エリアをつくろう

- ・食、歴史、環境等のテーマを設定して京都丹波と連携した大丹波広域観光圏をつくるグリーンツーリズムを進めよう
- ・農業体験、観光農園、農家民宿、市民農園をマップやインターネットで情報発信する観光資源を開発しよう
- ・ウォーキングイベント、農業体験、化石発掘体験、パラグライダー体験、ジュニアゴルフ等を取り入れた地元発のツアーを実施する
- ・丹波地域の自然・歴史・暮らしを展示に見立てた「地域まるごと博物館」を展開する
- ・ブランド農産物や地域の風物詩との複合化による観光を進める
- ・丹波の霧の撮影ツアーや明かりの少なさ等を活かした天体観測会を行う
- ・中長期的な丹波のブランド化戦略をつくる
- ・四季通年型の観光を進める
国際イベントを誘致しよう
- ・パラグライダー、ジュニアゴルフ、自転車レースの世界選手権を誘致する
地域産の食材を使った料理を開発しよう
- ・地域産食材を使ったご当地グルメ（ご当地丼、ご当地バーガー等）を開発する
- ・丹波産食材を使い、丹波地域での販売限定のスイーツをつくる
- ・食品メーカーと連携して郷土に伝わる料理を商品化する

【地域の活動例】

若者の目線で地域の魅力を活用した観光を推進 ~plug 合同会社~
篠山のまちづくりの企画に関わってきた 30 代の若者が、里山や畑をフィールドとした観光事業を企画・提案する合同会社を設立。
篠山市・丹波市、京阪神の 20~40 歳代の若い世代をターゲットに、地域の人たちと連携しながら、グリーンツーリズムや体験型ワークショップなど、若い感性で新たな観光事業に取り組んでいる。この他、篠山本の出版やツイッターを活用した観光客調査なども実施予定。



地域の資源を活かした「しごと」の創出

まちづくりや福祉、環境など地域の課題をビジネスチャンスとして捉え、地域のコミュニティの様々な主体が連携・協力しながら、地域の空き空間を活用し、NPOや地域団体等が取り組む「コミュニティビジネス」や「社会的起業」を支援するとともに、高齢者が地域社会への貢献や生きがいある働き方を目指す「生きがいしごと」を推進していきます。

【提案】

コミュニティビジネスを支援しよう

- ・都市住民対象の田舎暮らし体験をコミュニティビジネスにつなげる仕組みをつくる
 - ・職業訓練施設等と連携して人材育成と歴史的建造物の景観修復をつなぐ取組をする
ICTを活用しよう
 - ・インターネットを活用した在宅就労を進める（育児期の女性、高齢者、田舎暮らし生活者等）
- 高齢者の就労を支援しよう
- ・高齢者の経験・技能を活かした第二就業、生きがい就業を進める仕組みをつくる
 - ・高齢者を雇用した企業を顕彰する

地域づくり活動・文化活動の推進

高齢者の地域活動への参加を支援し、高齢者の能力やノウハウを地域づくりに活かしていくとともに、若者が地域づくりに参加しやすい仕組みづくりに取り組みます。

芸術文化は人を元気にするだけでなく、人や地域に誇りと愛着をもたらし、地域を活性化することから、地域の多彩な施設も活用しながら、新たな芸術文化を創造し、次世代に継承していきます。

【提案】

高齢者と若者が活躍する場をつくろう

- ・団体や自治会等で青年部を設置したり、役員への若者登用を進める
- ・丹波木綿、炭焼き、檜皮葺き等の技術を伝承する人材を育成する
- ・社会貢献の場を丹波地域に求める若者の受け入れ体制をつくる
施設を活用し芸術文化活動を進めよう
- ・廃校や古民家をアトリエやミニ劇場など、住民や芸術家が集える拠点として活用する
- ・施設をデータベース化し、インターネット等で発信する

【地域の活動例】

町屋を舞台に美術館に、地域を活性化 ～丹波篠山・まちなみアートフェスティバル実行委員会～
地元住民・商業者、アーティスト等で実行委員会を構成し、国重要伝統的建造物群保存地区の河原町通りにある妻入商家など25軒以上の町屋を“ギャラリー”として、篠山市ゆかりのアーティスト36名の作品を展示するイベントを開催。立体、造形、陶芸、絵画、彫刻、写真などあらゆるジャンルから出品があり、日本最大級の町屋芸術祭といわれている。



創作市民オペラ「おさん茂兵衛 丹波歌暦」の制作・上演 ～おさん茂兵衛 DE たんば実行委員会～
平成11年度～12年度の「丹波の森夢会議」のメンバーが中心となり実行委員会を発足。

近松門左衛門や井原西鶴の作品にも登場する丹波にまつわる逸話「おさん茂兵衛」を題材に、丹波発市民参加型創作オペラ「おさん茂兵衛 丹波歌暦」を制作し、丹波地域のほか、県立芸術文化センターでも上演している。

このほか、オペラコンサート「おさん茂兵衛 丹波歌暦」を京都丹波で上演するなど様々な形で「おさん茂兵衛」をとおして、丹波の特色ある自然と文化を全国に発信している。



若者の就労促進

企業誘致等により雇用の受け皿を確保するとともに、地域の若者に地元企業のよさを理解してもらい、取組や子育て環境を整えるなど若者が安心して働ける環境づくりを進め、地元での就労を促進するとともに、若者が起業できる環境づくりを促進していきます。

【提案】

- 地元企業等を知ってもらおう
- ・農林業や伝統産業、地場産業など多様な生き方や働き方を知ったり、体験してもらう機会をつくる
- ・学校の授業や実習等で、優れた技術を持つ地元企業を見学する機会をつくる
- ・丹波地域を陶芸や木工等の「ものづくりの郷」としてPRし、若者にアピールする若者の起業を増やそう
- ・丹波地域の地域資源を活かした起業を支援するための講座を開設する
- ・空き家・空き施設など空き空間を起業希望の若者に提供したり、空き農地等を利用して若者が特産物の共同生産・販売をする

地域コミュニティの再生

若い世代の地域行事への参加機会を増やして、地域への愛着と地域活動への参加意識を高めるとともに、近隣同士の助け合いを活発にすることにより、丹波地域の強みであるコミュニティの再生と活性化を図ります。

また、高齢化が進む小規模集落については、周辺集落が連携して支援するとともに、地域外のNPO等との連携により、コミュニティの維持を図りながら、将来的なあり方の検討も進めていきます。

【提案】

若者の地域活動への参加を促そう

- ・高齢者のための「いきいきサロン」等に子どもや若者が参加する
- ・若者の地域活動への参加を増やしたり、社会活動の役割を任せる仕組みをつくる
- ・高齢者に憩いの場を提供して、若者と勉強できるような機会をつくる

小規模集落を支援しよう

- ・地域内外のNPO等と連携して集落活性化を考える機会をつくる
- ・高齢化が進む小規模集落の支援カルテをつくる

【地域の活動例】

地域通貨を通じたコミュニティの再構築 ~ NPO法人丹波まちづくりプロジェクト ~

自分のできるサービスを、必要とする人との間で提供しあう地域通貨「未杜(みと)」を丹波市内中心に運営。サービス内容は、子守り、庭の剪定、配達、掃除、悩み相談、読み聞かせ、家具・家電リサイクルなど多岐に渡る。

「未杜」という名称には、持続可能な循環社会としての丹波の森の創造への願いが込められており、その流通によってコミュニティの再構築、分かち合い助け合う社会づくりを目指している。また、「未杜新聞」の発行(年4回)月に1回、地域課題についての学習会や実践活動の紹介のための井戸端会議も開催している。



地域ぐるみでの子育て推進

子育てグループや企業、商店街等が連携して、子育てしやすい環境づくりを進めるとともに、子どもに祭りや行事への参加、自然体験や自主学習の機会の提供、不登校やひきこもりの児童・生徒・若者の自立を支援することにより、地域ぐるみで子どもを育てていきます。

【提案】

子育て支援の環境づくりを進めよう

- ・子育てグループの交流を積極的に行い、子育ての情報やノウハウの情報交換を行う
- ・地域の企業、商店街等に子育て支援へ参加してもらう
- ・移住者等に医療や子育て支援情報を提供する
- ・「イクメンの日」を設け、育児中のお父さんが集まる機会をつくる

子どもの遊び場をつくろう

- ・里山等の自然環境を活かして子どもの遊び場をつくる
- ・廃校となった校舎を地域の子どもたちの学びや遊びの拠点として活用する

地域で自主的な学習活動を進めよう

- ・ 公民館等で地域住民が子どもの学習活動を支援する
- ・ 通学合宿を校区ごとに行い、高齢者がボランティアとして指導する
子ども等の自立を支援しよう
- ・ 不登校やひきこもりの児童・生徒・若者が気軽に集えるたまり場を増やす
子どもたちを地域づくりに参加させよう
- ・ 継続的に子どもたちを地域の行事・活動に参加させる

【地域の活動例】

「通学合宿」による子どもの地域への参加 ~ 篠山市城南地区通学合宿実行委員会 ~

篠山市城南地区では、年齢の異なる地域の子どもたちが泊まりがけで共同生活をする「通学合宿」に取り組んでいる。

小学生から高校生までを対象として、共同生活を通じて、ルールを守ることや人を思いやる心の大切さを学ぶ、地域の人たちとの交流により、地域を愛する心を養う、対人関係能力を育て、自然にあいさつを交わせる環境を作る、地域の子どもを地域で育てる気運を高め、安全・安心な地域づくりを行う、等を目指して取組を進めている。



高齢者が安心して暮らせる地域づくり

高齢化が進む地域コミュニティにおいては、高齢者が安心して暮らせることが何よりも大切です。

このため、地域で高齢者への見守りや声かけを行うとともに、高齢者の健康づくりやふれあいの場づくりを進めます。また、交通手段の確保など高齢者の生活利便性の向上に向けた取組を進めます。

【提案】

高齢者が中心の地域づくりをしよう

- ・ 健康・福祉・介護等の連携を強化して充実を図り、「健康・福祉・介護タウン」のモデル地域としてPRする
- ・ 平均年齢日本一の「高齢者タウン」を目指し、高齢者のノウハウや技術を活かして高齢者が中心となった地域をつくる（若者は地域外で修業してもらう）
地域で見守りや交流をしよう
- ・ 地域での声かけ運動（子どもから高齢者への声かけなど）を進める
- ・ いきいきサロンや食事会等の高齢者のふれあいの場をつくる
若者等とのふれあいをしよう
- ・ 三世代の同居や近隣での居住を進める
- ・ 青少年の介護体験会を実施する
- ・ 高齢者にできるだけ家から出てもらい、隣近所と交流する場をつくる
- ・ 学校で高齢者が子どもたちと共に給食を食べる取組を進める
- ・ ラジオ体操など子どもの行事に高齢者が参加する
交通手段を確保しよう
- ・ デマンドバスやデマンドタクシー等を必要な時に使えるような仕組みをつくる

【地域の活動例】

ふれあいバスによる高齢者の交通手段確保 ~ NPO法人鴨庄 ~
丹波市市島町鴨庄地区では、地元の要請を受け、平成15年6月から住民組織「鴨庄の明日を考える会」による、ふれあいバスの運行が始まった。

平成21年1月には、活動を継続させるため「NPO法人鴨庄」として認可を受け、有料化による運営を行っている。月・水・金の午前中、8人乗りワゴン車で運行。同地区の33ヶ所に停留所があり、丹波市市島支所や診療所、郵便局等を結び、交通手段を持たない高齢者から好評を得ている。



高齢者が活躍できる地域づくり

少子高齢化が進むなか、高齢者を地域の発展にとってかけがえのない「財産」ととらえ、経済・社会活動に高齢者の知恵や経験を積極的に活用していきます。

このため、住み慣れた地域での高齢者の社会参加を進め、「生涯現役」で活躍できる環境づくりを進めます。

【提案】

高齢者の活躍の場をつくろう

- ・ 知と技に優れた高齢者を「マイスター」として選定し、地域に講師として派遣する
- ・ 昔遊びや餅つき、縄ない等の上手な高齢者をスーパーおじいちゃん・おばあちゃんバンクとして登録し、学校の行事等に派遣する
- ・ 高齢者の芸術活動やいきがい就業を支援する
- ・ 高齢者が活動しやすいよう交通手段を確保する
- ・ 高齢者が託児所を運営するなど子育て支援をしたり、昔の遊びを学ぶ会をする

誰もが暮らしやすいユニバーサル社会の実現

障害の有無や年齢、性別、文化など個人の特性にかかわらず、すべての人が生活の質の向上を実現し、開かれた暮らしやすい社会づくりをめざします。

男女の古い役割分担意識の解消を目指して、家庭や地域、職場において、男女が共に活躍できる環境づくりを進めていきます。

【提案】

- 福祉の担い手を育てよう
- ・ボランティアを育成し、ボランティア同士のネットワークを強化する
- 地域のユニバーサル化を進めよう
- ・商業施設や公共施設のユニバーサル化や多言語表示を進める
- ・体験型農園について、車椅子でも利用できるような通路や高設栽培の施設をつくる
- ・お店用、救急用、災害用等のコミュニケーションボード（障害のある人や外国人等とのコミュニケーションを円滑に図るため、絵記号等を掲載したボード）を作って配布する
- 自治会等での男女共同参画意識を向上させよう
- ・自治会や老人会での男女共同参画意識向上を目指す朗読劇や紙芝居を行う
- ・女性の自治会長を増やす

【地域の活動例】

創作劇による人権啓発 ～篠山市乾新町自治会「乾劇団」～
より身近に人権について考えてもらおうと、平成11年に地域の20代から50代の男性が集まって結成。男女、高齢者等の人権問題を題材とした創作劇を自治会や校区での人権学習会で上演し、地域の人権意識の向上に寄与している。

その親しみと楽しさのある演劇活動が評価され、平成22年に、法務大臣表彰を受賞した。



障害のある人も外国人も共に暮らす地域社会の実現

障害のある人が普通に生活できるだけでなく、自らの能力を発揮し、自己実現できる地域づくりを進めていきます。

地域で増加している在住外国人との交流と相互理解を進め、異なる文化や価値観を尊重できる地域の実現をめざします。

【提案】

- 障害のある人の社会参加を進めよう
- ・障害を持つ高齢者の実情を把握する
- ・障害のある人と健常者とのふれあいウォーキング等を実施する
- ・障害福祉サービス事業所等で作る製品の品質向上や販路拡大に向けた支援を行う
- 在住外国人との相互理解を進めよう
- ・在住外国人へ多言語での情報伝達の体制をつくる（行政サービスや税金・国民健康保険等の説明、教育現場での通訳や日本語の学習指導等）

- ・就学前の在住外国人の子育て支援や、孤立しがちな在住外国人の母親の支援をする
- ・在住外国人に、自治会の祭りや清掃活動への参加など、地域住民としての自覚を持ってもらう取組をする
- ・在住外国人がお国料理を紹介したり、交流スペースをつくって交流会をするなど、相互理解を進める取組をする
- ・住民が在住外国人の見守りをする

【地域の活動例】

障害のある人の能力が発揮できる地域づくり ~ NPO法人いぬいふくし村 ~

3つの福祉事業所、「紙ふうせん」、「コミュニティカフェミーつけた」、「みんなの家」を運営し、住民と協働で地域（主として篠山市）に根ざした障害のある人の就労支援を行っている。

また、市民講座の開催や、バリアフリーコンサート、人権学習や手話普及のための講師派遣、ユニバーサル社会づくり啓発のための本やビデオの発行など、子どもや高齢者、障害のある人等が交流できるユニバーサル社会づくりを進めている。



多文化共生社会をめざす地域づくり ~ NPO法人篠山国際理解センター ~

外国の料理教室や語学講座の開催、地球っ子・地球市民プログラム提供による国際理解やホームステイ、スポーツ・お祭りへの参加を通じた国際交流、外国人のための日本語教室や相談窓口・同行通訳などの在住外国人の生活支援を柱として活動を展開。

だれもが安全で安心して暮らせるまちづくり、民族や国籍を超えた多文化共生の地域づくりを推進している。



医療や健康、食の安全が確保された安心な地域の実現

地域医療を確保するため、医師への感謝の気持ちを広げながらお互いの信頼関係を構築するとともに、医療機関の適切な利用を呼びかけるなど、人々が自らの地域医療を守り育てていく地域づくりを進めます。また、住民自らが疾病予防や健康づくりの取組を進めていきます。

食品の安全に対する関心の高まりに対応するため、食品認証制度等の普及を進めるとともに、地元農産物を使った地産地消の推進、食育の意識啓発を進めます。

【提案】

- 医療機関の適切な利用を呼びかけよう
- ・かかりつけ医の利用やコンビニ受診を抑制する運動を進める
- 公園を活用した健康づくりをしよう
- ・「ヘルシーパーク」と名付け、公園を活用した健康づくりを進める
- 食に対する安全意識を普及しよう
- ・地域の食材や伝統食を紹介するイベントを行う

【地域の活動例】

地域医療を守る取組 ～ 県立柏原病院の小児科を守る会 ～

平成 19 年 4 月、県立柏原病院小児科が医師不足により存続の危機を迎えたことから、子育て中の母親が結成。「子どもを守ろう！お医者さんを守ろう！」を原点に、3つのスローガン コンビニ受診を控えよう かかりつけ医を持とう お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう、を掲げ、住民啓発用のステッカーの作成、医師への感謝を伝える「ありがとうメッセージ」の募集・送付、適正受診についての小冊子の作成、医療座談会の開催等の活動を行っている。



災害に強く、犯罪のない地域づくりの推進

地震や多発する集中豪雨等の自然災害に地域全体で備えていくため、自主防災組織の強化や災害時に迅速かつ的確に対応できるよう自主防災訓練を行うなど、地域の防災対応力向上のための取組を継続して進めていきます。

子どもの見守りなど地域ぐるみでの防犯活動に取り組むほか、インターネットや携帯電話などICTの普及に伴う新たな犯罪から青少年を守るとともに、高齢者の消費者被害の防止を強化することにより、犯罪が起こりにくい安全な環境づくりを進めます。

【提案】

住民の防災対応力を向上させよう

- ・ 様々な自然災害に対応した手づくりの危険箇所マップや防災マップを作成し研修会を行う
- ・ 日時や内容に変化をつけたり、興味を持って楽しんで参加できるような防災訓練を企画して実施する
- ・ 機能する自主防災組織や地域防災リーダーを育成する
- ・ 災害時に要援護が必要となる人（障害のある人・外国人など）の実態を把握し、非常時の連絡網をつくる

地域で防犯活動を進めよう

- ・ 子どもの見守りを老人会や自治会など地域ぐるみで行う
- ・ 街灯を設置して街を明るくしたり、見回り活動を行い、犯罪が起こりにくい環境をつくる

消費者支援活動を進めよう

- ・ 高齢者の消費者被害防止のための出前講座や寸劇等を通じて啓発活動を行う
- ・ 自治会等とICTの専門家が連携してインターネット被害防止の啓発・相談活動を実施する

7 新たな将来像の実現に向けて

(1) 取組姿勢

現行地域ビジョンでは、「森の市民」になることを提唱（P14）していますが、丹波の森構想の評価検証報告（平成21年3月）においても、「もりびとになって たんばらしさを楽しもう」という提言で、「もりびと」（“もり”には、「森」「守」「盛」の意味を込め、丹波の森を守り盛んにすることを指す）という同様の考え方が提唱されています。

また、現行地域ビジョンでは、丹波地域の豊かな自然を守る「いのちをはぐくむ・自然の環」、地域内外の人々が交流・連携する「ひとをはぐくむ・人間の環」、分野や地域を超えて産業をつないでいく「なりわいをはぐくむ・産業の環」という3つの環を考え、行動するとともに、これらの「環」をつなぎ、成長させながら、育てていくことが大切だとしています。

こうした取組姿勢を引き継ぎ、基本としながら、丹波地域をはじめとした住民、団体、企業、行政等が連携し、主体的に取組を進めていくことにより、丹波地域ビジョンに掲げる5つの将来像の実現を目指していくこととします。

(2) シンボルプロジェクトの展開

丹波地域ビジョン委員会では、平成18年度から、住民と行政の参画と協働をより一層推進していくため、地域住民や団体が行政との連携を推進する象徴的なプロジェクトとして、『たんば田舎暮らし支援プロジェクト』をシンボルプロジェクトとして設定し、田舎暮らし案内所の開設、田舎暮らしフォーラムの開催、交流イベントの実施等に取り組んできました。

さらに最近では、企業と連携した森・里づくりや大学との連携による商店街の活性化等の地域づくり、歴史的・文化的つながりを持つ京都丹波との「大丹波」連携、農産物の都市部での販売や県民交流広場を活用した都市との交流など、連携・交流の輪が広がっています。

こうした状況を踏まえて、これまで取り組んできた「たんば田舎暮らし支援プロジェクト」を発展させ、シンボルプロジェクトを次のように設定し、住民と行政が協力して取組を進めていきます。

たんばを楽しむ連携・交流プロジェクト

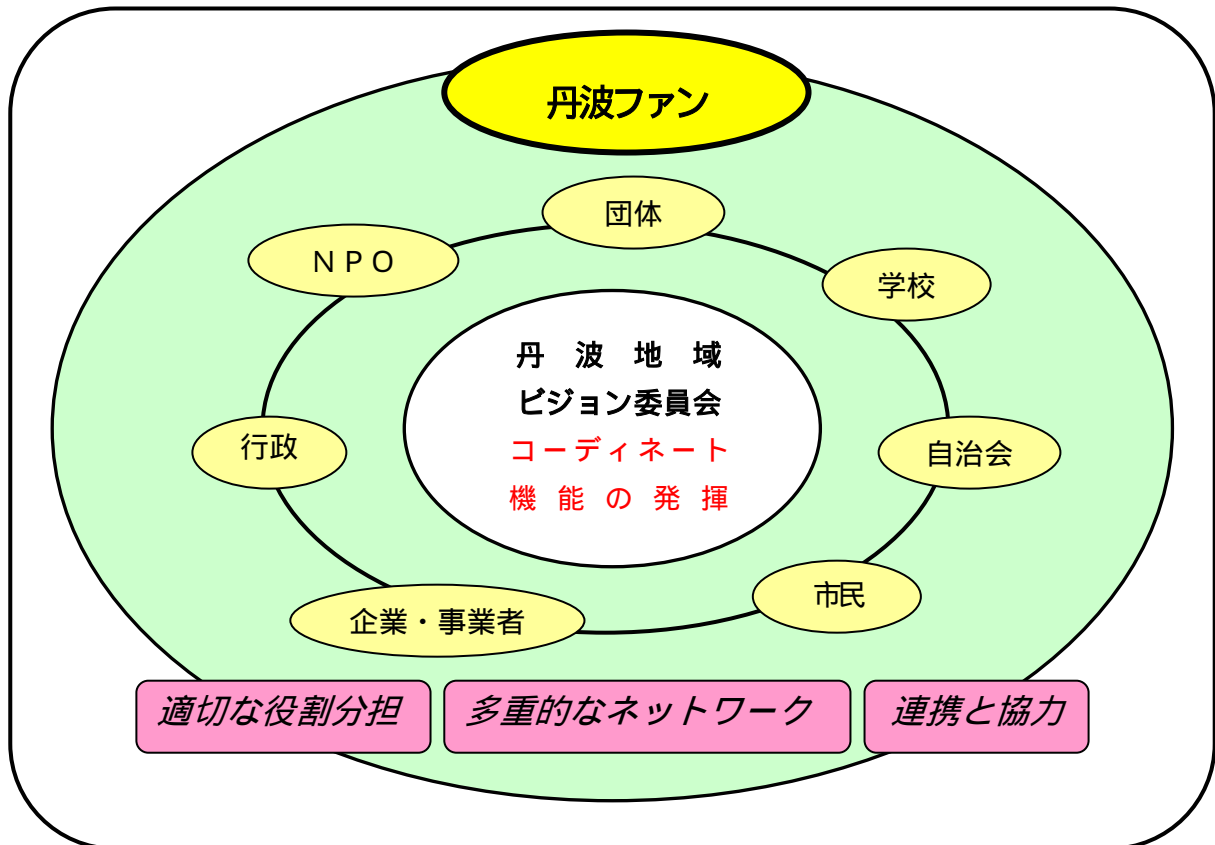
【取組例】

- ・丹波地域に人を呼び込むため、魅力あふれる田舎暮らしを積極的に情報発信する
- ・空き家を活用した体験・交流施設をつくり、週末等の短期滞在、さらには定住化につなげていく
- ・田舎暮らし支援を行うとともに、都市からの移住者のネットワークづくりを進める
- ・京都丹波との連携により、「大丹波」の魅力をアピールしていく
- ・企業や大学と連携した森・里づくりや地域づくりを推進する
- ・食と農、文化、恐竜化石など多様な地域資源を活用した都市との交流を進め、丹波地域の魅力を高めることにより、地域内外で「丹波ファン」を増やす

(3) 取組体制

丹波地域ビジョンの将来像を実現していくためには、地域住民・団体など地域内外の様々な主体が参画と協働の理念のもとで、相乗効果が発揮できるよう適切な役割分担を行い、多重的なネットワークを形成して連携・協力しながら、地域を超えた活動を展開していく必要があります。

丹波地域ビジョンの将来像を住民主体で実現していくために設置された丹波地域ビジョン委員会は、企業、NPO、自治会、まちづくり協議会等との連携や、阪神間他地域のビジョン委員会・地域活動団体との連携を進め、地域のコーディネート役を担うなど、丹波地域ビジョンの実現の具体化に向けた取組を進めていきます。



丹波地域ビジョン委員会が取り組む当面の活動

将来像の実現に向けた提案の中で、丹波地域ビジョン委員会が中心となり、地域住民や関係団体と連携しながら取り組んでいく重点アクションを例示的にとりあげます。

(1) 将来像1 みんなで創る“自立のたんば”

| | |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション1 | 地域資源の発掘と魅力情報を発信する |
| 活動内容 | <p>都市住民や若者の視点を取り入れながら、古き良き伝統、風景等の隠れた地域資源を発掘・再発見する。発掘した地域資源を磨き上げ、都市部に情報発信していく。</p> <p>様々な地域資源の調査（史跡、行事、寺院、植生、人）を行う。</p> <p>都市住民や若者を交えた地域探訪イベントを開催する。</p> <p>丹波地域の地域資源の活用方法について、地域住民と都市住民による座談会を開催する。</p> <p>観光協会等と連携し、観光客に対し丹波地域の魅力をアピールしていく。</p> |

(2) 将来像2 都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

| | |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション2 | 森・里山グループのネットワークをつくる |
| 活動内容 | <p>丹波地域で、森・里山あるいは自然に関する活動を行っている団体のネットワークづくりを推進する。</p> <p>各団体の活動地域や内容をまとめた「丹波地域里山マップ」を作成する。</p> <p>各団体に協力を呼びかけ、子どもたちが里山に触れることができる体験場を整備する。</p> |

| | |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション3 | 移住者のネットワークづくりで丹波地域への移住を促進する |
| 活動内容 | <p>田舎暮らしの推進団体等が把握している移住者情報を収集し、移住者間の交流や情報発信の場を設け、定住後のフォローと地域活動への参加を推進する。</p> <p>移住者に対し、豊かな田舎暮らしを楽しんでもらえるよう各種情報を提供する。</p> <p>元気で意欲のある移住者に地域活動への参加を呼びかける。</p> <p>田舎暮らしの体験者である移住者に、田舎暮らし情報の発信者になってもらう。</p> |

| | |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション4 | 丹波地域の魅力あふれる情報を発信して、定住者を呼び込む |
| 活動内容 | <p>丹波地域の田舎暮らしの魅力を紹介して都市部からの定住を促進し、地域の活性化に取り組む。</p> <p>田舎暮らしの情報等を都市住民に発信する。</p> <p>空き家の状況を調べ、情報提供ができるようにとりまとめる。</p> <p>空き家を利用した田舎暮らしの体験・交流施設など空き家の活用方法を検討・提案し、地域の活性化に取り組む。</p> <p>丹波地域の魅力ある田舎暮らしの紹介・相談の場を都市部に設置するよう、各団体等に呼びかける。</p> |

| | |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション5 | 丹波地域の子どもたちに自然や環境を学べる機会を提供する |
| 活動内容 | <p>豊かな森や里山、希少な動植物に加え、恐竜・哺乳類化石の発見など、丹波地域では自然や環境について学習する素材が各地にある。学校や地域と連携して、自然や環境について学ぶ場づくりを行う。</p> <p>子どもたちが気軽に川や里山に入ることができる場所を調査し、学校やPTA、地域の子ども会等で自然学習の場として活用していく。</p> <p>川や里山に入り、体験・学習ができるイベントを開催する。</p> <p>たんば自然環境の日を設け、子どもたち等の活動の発表会を開催する。</p> |

(3) 将来像3 やりがいを実感できる“元気なたんば”

| | |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション6 | 農業を通じた丹波地域のファンをつくる |
| 活動内容 | <p>有機野菜の栽培体験等を通じて農業への関心を高めるイベントを開催し、食の安全と農業の楽しさを伝え、丹波ファンづくりに結びつけていく。</p> <p>主に都市住民を対象とした農業体験講座を実施する。</p> <p>丹波地域の農産物や農産物を使った料理の普及を図る。</p> <p>丹波地域で農業に取り組む移住者の体験談を紹介するイベントを開催する。</p> <p>丹波地域の農業体験や有機農業の取組をホームページ等で発信していく。</p> |

(4) 将来像4 多世代が支え合う“絆のたんば”

| | |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション7 | 高齢者と子ども・若者とのふれあいづくりを推進する |
| 活動内容 | <p>大人になってからも自然に高齢者と関わっていけるよう、子どもが幼いうちから段階的に、地域の高齢者と接していく機会づくりを、関係団体と連携しながら進めていく。</p> <p>高齢者から子どもや若者への挨拶や声かけを行う運動を展開する。</p> <p>高齢者が指導者となり餅つきや昔ながらの遊びを指導する。</p> <p>中学や高校の部活動(ボランティア部等)で、いきいきサロン等の手伝いを経験してもらう。</p> |

| | |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション8 | 不登校や引きこもりの子ども・若者が気軽に集まることのできる場づくりを行う |
| 活動内容 | <p>人目を気にすることなく、不登校や引きこもりの若者が気軽に集まることのできる拠点を作る。</p> <p>相談員を置いて、悩み事を聞いたり、仲間同士の交流を手助けし、本人が自分なりに行動を起こしていけるよう支援していく。</p> <p>不登校や引きこもりの支援に関心のある方を対象に、その現状やカウンセリング等について学ぶ学習会やフォーラムを開催する。</p> <p>学習会等で学んだことを、地域や身近な人たちに伝えていくことにより、地域全体で、不登校や引きこもりについて考えていく。</p> |

(5) 将来像5 とともに暮らす“安全安心なたんば”

| | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション9 | 男女共同参画の意識啓発を推進する |
| 活動内容 | <p>男女共同参画を推進している団体との連携を図りながら、男女の役割分担等の意識啓発を図っていく。</p> <p>ビジョン委員会で男女共同参画をテーマにした出前紙芝居講座を実施する。</p> <p>丹波市人権・同和教育協議会、篠山市人権・同和教育研究協議会と連携しながら、男女共同参画啓発を行っていく。</p> <p>丹波地域内外の男女共同参画推進団体と連携し、意見交換等を行いながら啓発活動を実施する。</p> |

| | |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション10 | 障害のある人と健常者との交流を推進する |
| 活動内容 | <p>障害のある人や健常者が交流できる場づくりを進め、心のバリアフリーを推進していく。</p> <p>障害のある人と健常者が丹波地域の自然の中で気軽にふれ合えるウォーキングイベント等を行う。</p> <p>障害者スポーツを支援し、障害のある人の社会参画を推進する。</p> <p>障害のある人とその家族との意見交換会等を開催し、地域との交流や障害のある人が自立に向けた思いを発言できる機会づくりとする。</p> <p>障害のある人を対象としたトイレマップの更新と活用の呼びかけを行う。</p> |

| | |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション11 | 在住外国人と地域住民との相互理解を推進する |
| 活動内容 | <p>在住外国人と地域住民が共に理解し合いながら暮らす多文化共生社会を推進するため、交流のきっかけづくりを行う。</p> <p>在住外国人と地域住民がふれ合える外国料理紹介パーティ等のイベントを行う。</p> <p>地域の交流拠点として、在住外国人と地域住民がふれ合える交流スペースをつくる。</p> |

2020年（平成32年）の丹波地域の暮らし・ライフスタイル

2020年（平成32年）の丹波地域ではどんな生活が送られているのでしょうか。ここでは、3名の方に登場いただきました。もちろん、登場人物や生活の設定は架空のものです。

第1話 都会から移住し農業に取り組むAさん

男性40歳。若い頃から興味があった農業を諦めきれず、妻38歳と子ども2人の家族でUターン。地域の方に農業を教えてもらいながら、行事や日役にも積極的に参加して・・・。

20代からやりたいと思っていた農業を諦めきれず、35歳で農業研修所に通い、37歳から有機農業が盛んで、実家の大阪にも近い丹波地域に移住してきた。

実際にやってみると農業は難しいが、地域の皆さんが教えてくれるので、だいぶ分かってきた。そんなこともあり、地域の人と積極的に交流したいと考えている。地域の子どもの数は少ないが、子どもたちも学年を超えて一緒に遊んでいる。

地域の行事や日役は、地域の人と仲良くなれる機会だから積極的に出るようにしている。先日も道の草刈に出た。こんな道の草刈がいるのかなと思ったが、後から聞くと通学路とのこと。もっと、日役の目的や意義の説明があれば、移住してきた人も参加意欲が湧くのではと思った。

先日、地域の将来に関する話し合いの会があった。地域のリーダーたちは65歳になるのに、里芋を栽培して将来は里芋で焼酎を造りたいとか、放置されている農地を管理するために営農組合を立ち上げたとか、若い人よりも元気だ。こういう姿を見ていると元気が出るし、もし里芋が新しい特産品になると我が家の経営も安定するかもしれないと、少し期待している。

地域に若い人がもっと増えればいいと思う。最初は家を探すのに苦労したけど、丹波では地域のリーダーが相談に乗るだけでなく、家主との仲介もしてくれたので、家主も安心して貸してくれた。少々小さくても、古くても、安価で住める民家を紹介したり、仲介してくれる窓口や田舎暮らしが体験できる施設が地域にあれば、移住者が増え、もっと活気づくと思う。

農業の重要さが見直されているけれど、農業離れの傾向は止んでいない。農業の6次産業化や営農組合づくりなど、僕たちが新しい農業、楽しい農業を見せていけば、地域の中にも農業に魅力を感じる若い人も現れるのではないかと考えている。

第2話 Uターンで新しい地域づくりに参加するB夫婦

夫55歳、妻52歳の夫婦でUターン。2人の息子は都会で大学生活。夫は食品会社の丹波地域担当で、妻は丹波地域に設立された大学校に通いながら、コミュニティカフェ＆野菜市の経営に参加して・・・。

父親が亡くなったのを契機に東京からUターンして、80歳の母親と丹波地域に住んでいる。バイオ関連の研究実績を活かして、大手食品会社の丹波地域担当者に採用され、自宅をオフィスとして仕事をしている。丹波地域は、バイオ・食品関係企業から注目されているのだ。

休日には、実家近くの山間の田んぼで米や野菜を作っている。実家のある集落は、この10年で転出に伴う人口減と高齢化が急速に進んでいる。校区には自治振興会があり、地域の活性化を進めており、その中で「元気づくりプロジェクト」が発足した。地域の課題や夢について自由に語り合い、テーマに興味ある人がグループを作って具体化・実現をめざす、出入り自由のフランクな会合だ。若い人や女性も参加し、気軽に意見が言える。

こんなことはこれまでなかった。今、丹波地域の自然の中でクリエイティブな仕事をしてもらおうと、リゾートオフィス構想をみんなでつくっている。

妻は、昨年から、4つの大学の協働でスタートした「たんば創造大学校」に通っている。毎週土曜日、4大学のサテライトキャンパスを会場に、10程度の実践型講座が開講されている。大学と同程度のレベルの高い授業について行くのは大変だが、丹波地域にしながら高等教育が受けられるのは魅力だ。来春には、「コミュニティデザイン」と「着地型観光」のコースを修了する。大学で学ぶようになってから、「丹波地域の良いところを活かし、悪いところを変えていかなくっちゃ・・・」と言うようになった。

また、妻は地域の友達数人と一緒に、利用されなくなった店舗を無償で借りて、コミュニティカフェ＆野菜市を週3日開催している。お年寄りがくつろげる場所があったらと始めたら、お年寄りに喜ばれるだけでなく、自分たちも弁当を持って集まって、おしゃべりできるのが楽しいとのこと。家で沢山採れる野菜を持ってきて並べたら、喜んで買ってください。これからの仕事は、儲かることよりも楽しいことが大切なんだと、そう思うようになってきた。

田舎に帰って、果たして満足して暮らせるだろうか。当初そう思ったことが嘘のようだ。生まれ育った丹波地域で、かつて都会で暮らしていたときの何倍も豊かに暮らしていけると実感するようになってきた。

第3話 身近なたんばツアーを始めたC子さん

女性 65 歳、夫は他界、娘 2 人は結婚。ブログで知り合った東京の友達を丹波地域に案内したことをきっかけに、地元の友人と自家用車を利用したツアービジネスを立ち上げて・・・。

夫婦で丹波地域で建築設計事務所を運営してきたが、夫は5年前に他界。家で食べる程度の米と野菜は、裏の田と畑で作っている。2人の娘は結婚して3人の孫がいる。

2年前にブログを始めた。丹波地域の四季折々の風景や食べ物を紹介すると、「丹波には憧れていましたが、本当にいいところですね」と、関東、九州・中四国地方の方は絶賛してくれる。ただ、丹波地域を訪れたことのある人は1割程度だ。新大阪から1時間半で到着するのに、“行きにくいところ”という印象があるようだ。

東京のHさんと広島の方Mさんに「一度来ませんか？」と誘ったら、二人そろって来ることになり、近くの仲間と大歓迎パーティを開催して迎えた。翌日、お薦めの丹波布伝承館、水分れ公園、セツブンソウやユキワリイチゲをはじめとした山野草の自生地、篠山城下などを案内した。丹波布の糸紡ぎや機織りの体験は珍しく、水分れ公園では同じ水が日本海と太平洋に流れていくことに興味を示し、また可憐な山野草に出会えたことに感慨深げだった。

この経験から、知る人ぞ知る丹波を解説付きで案内すれば、全国の人に喜んでもらえるのではないかと考え、近くの仲間と自動車を利用した案内つき丹波ツアーをビジネスとして立ち上げた。旅行代理店とも連携して、全国ネットの「あこがれの丹波ツアー」の実現を目指している。都会の方を案内するうちに、当たり前とと思っていた丹波地域の自然や風景が貴重であることが分かってきた。身近にある地域の資源を再発見し、丹波ファンを増やしていきたい。最近そんなことを強く感じている。